

GAP

UFOと宇宙哲学の研究誌 季刊日本GAP機関誌

ニュースレター

GAP-JAPAN NEWSLETTER

No. **73** SPRING · 1981

バック・ネルソンの 驚くべきコンタクト

—会員体験実話—

G. アダムスキー

「さらば空飛ぶ円盤」第1章 なぜ彼らは来たのか



〈巻頭言〉UFO研究は人間研究…1

バック・ネルソンの**驚くべきコンタクト**

久保田八郎…2

—体験談—

- ① 私のテレパシー体験 田中 正… 9
- ② 宇宙哲学で運命が好転した！ 篠 芳史…11
- ③ ミラクルワードにより奇跡が発生！ 黒田保夫…16
- ④ 信念の力で蘇生した私 山口 緑…19

〈書評〉キリストの生涯／〈写真〉島宇宙…21

質疑応答 **宇宙と人間の真相(3)**

フレッド・ステックリング…22

さらば空飛ぶ円盤 第1章 **なぜ彼らは来たのか** G・アダムスキー…25

〈予告〉「宇宙からの訪問者」出版記念会開催…30

80年度「アメリカ南米宇宙考古学の旅」を回想して(最終回)…32

〈予告〉第3回日本GAP海外研修旅行 アメリカメキシコ宇宙考古学の旅…34

〈会員の声〉むかし出会った惑星で…36

日本GAP各地行事報告と予告…38

日本GAP全国月例研究会案内…40

★本誌掲載記事の内、海外関係のものは翻訳転載権取得済。
全記事・写真共他誌への無断転載を禁じます。



GAPとは

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

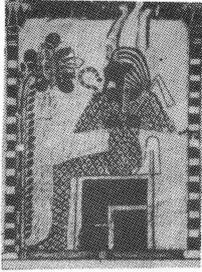
日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

■表紙写真はアナウンサーと対談放送中のジョージ・アダムスキー。

〈巻頭言〉

UFO研究は
人間研究

戦後UFO問題が脚光をあびてから三十数年が経過した。その間膨大な情報流れれては消滅し、大多数の目撃・コンタクト報告は忘却の彼方に押しやられたが、一部のコンタクト事件をめぐって熾烈な論争が展開し、UFO研究界は醜悪な主導権争いの場と化して、UFO研究どころか罵詈雑言の飛び交う泥沼になってしまった。

地球人はテレパシクな能力に欠けるために証言の真偽を判定するには物的証拠を必要とするが、訴訟事件等の審理に際し裁判官が事実認定に関して心の中でわき起こった確信または認識により判断することもあって、これを心証と称するのである。したがって裁判官の心証を害すれば被告が不利になってくる。結局、最終的には裁判官の推理と判断にゆだねられることになるのだが、これは人間の推理力を重視した結果である。

UFO事件においても、あるコンタクトティー(別惑星から来た人間と接触したと称する人)のクレーム(主張)について物的証拠または傍証などがない場合、その内容の真偽の判定は全く個人の推理や直感に頼らざるを得ない。人によっては現代の科学、特に天文学や宇宙開発技術等の成果を基準に判断するだろうが、

地球の科学が大気圏外の万象をきわめつくしたとは言い難いので、この基準は必ずしもあてにはならない。しばしば繰り返すように、大國政府や権威筋は宇宙問題の真相を隠蔽していると考えられるので、それらの声明を鵠呑みにするわけにはゆかないのである。

ところが、世界の四十億の人間が、誤った情報や偽りの発表等をいかに簡単に信じているかは驚くべきものがある。事実が大きく歪曲され脚色されて流されるのを権威筋発表というので一も二もなく信じ込む大衆の精神構造はどのようになっているのだろうか。

ここにおいて我々の重大な関心事となるのはUFO問題よりもむしろそれについて論じ合う人間の心的態度である。ある事件をAは真向から否定し、信ずる者を罵倒する。Bはこの事件を事実と考えて冷静に事態を観察する。Cはいずれにも傾かず、懐疑的な思索を続けるという場合、終局的にはだれか一人が正しくて他が間違っていたという結果になるのだろうか、テレパシクな能力も物証もない条件下では間違うこともあり得るので、そのときは率直に自己の誤りを認めればよい。ただそれだけのことで、何も喧嘩論争をやるほどのことはないのだが、地球ではそうはゆかない。何はおいても他人と争い、自己を正当化し、防壁を築こうとする。こうしてこの世界は闘争の惑星と化しているのである。

こうなればUFO研究は人間研究になつてくるのだ。別惑星の宇宙船の推進機関がどうのこうのと論じるよりも、それ

を論じる人間の事態を研究するほうが切実な問題ではあるまいか。たしかに地球の科学技術は驚異的な進歩を遂げているけれども、業績をあげた人間同士が反目するようでは決して平安な社会は実現しない。ましてUFOのごとき一般人にとっては海のものとも山のものとも判じがたい代物の「研究」を行っている好事家たちが口角泡をとばして互いに非難し合うとは、馬鹿らしさを通り越して滑稽ではないか。

そもそも人間には思想信条の自由があるから、だれが何を考えようと信じようと本人の勝手である。他人から妨害される謂れは徹塵もない。ジョージ・アダムスキーの主張や思想を「正しい」と信ずる自由がある一方、それを否定する自由もある。いずれの側につくかは本人次第だ。いけないのは自分こそ間違いないと思ふのあまり意見の異なる相手を感情的に非難攻撃する態度である。これでは世の中が面白くなるのだ。

(地球上の)人間とはなんとという馬鹿馬鹿しい存在なのだろうと慨嘆する前に人間とは一体何なのか、愉快な生活をすごすためには他人に対して如何なる態度を示せばよいか、などをまず知ってかかる必要がある。これは根本的に重要であつて、この土台を抜きにして森羅万象の研究をやっても論争の場をひろげるだけだろう。

ジョージ・アダムスキーが驚異的な体験記や宇宙的な哲学を発表してから三十年近い歳月が経過したが、これをめぐるすさまじい論争——というよりも罵倒、

非難、否定などが渦巻いて、その名は抹殺されかけたかにみえた。

だがそうはいかない。アダムスキーの体験記のいずれの部分にせよ権威筋から公式に否定された例ははかつてないことを銘記する必要がある。それどころか内外のトップクラスの科学者でひそかにアダムスキーを支持する人が少なからず存在するのである。もちろんこの科学者たちは立場上氏名を隠している。そして、どういふわけかアダムスキーを滅茶苦茶に誹謗する人間に限って高校程度の物理や数学の知識もないド素人が多い。

なぜアダムスキーを攻撃するのか! つまるところ、彼らは二十一世紀の科学を先取りしたアダムスキーの偉大な業績を認めたがゆえに、自己の貧弱な知識と直感力を隠したいという欲求のあらわれとして逆に相手を非難することにより安堵感を得ようという心理が働くのである。これを心理学では projection (投射) という。だから本当に否定したければ無視すればよいのだ。やはりUFO研究は人間研究ということになる。

人間研究とは単なる心理学的な研究調査ばかりではなく、人体細胞の作用を土台とする生命科学全般も含む。なぜならテレパシー・透視その他のいわゆる超能力は人体の細胞と密接な関係があるからで、これを抜きにして超能力の謎を解明することは不可能であるからだ。いわゆる心霊現象はすべて細胞の作用である。守護霊なるものも実は細胞から来る印象で形成される幻覚であつて、本来存在しないものである。

「私は火星・月・金星へ行つた」

バック・ネルソンの 驚くべきコンタクト

久保田 八郎



●バック・ネルソン

彼は常にこの作業服姿で通した。

この記事は去る三月七日に東京月例会で行われた久保田会長の講演を収録したもので、二十七年前にアメリカで発生したバック・ネルソンのコンタクト実話の紹介である。この事件は闇から闇に葬られて一般化しなかつたので知る人が少なく、本篇はUFO研究者にとつて貴重な資料となるものである。

× × ×
今日は宇宙哲学よりも少し話を交えましてUFO問題の非常に興味深い素晴らしい話をいたしましょう。ほとんど知られていない昔の話ですが、アダムスキー問題と重要な関係があります。

アメリカにバック・ネルソンというコンタクトマン(異星人と接触した人)がいました。この名前をお聞きになつた方は多いと思いますが、どういうわけかこの人のこまかい体験談は一般に知られていません。闇から闇に葬られたという感じがします。しかしこの内容は素晴らしいものでして、しかもアダムスキーが、「バック・ネルソンの体験は真実だつたのだ」と語つたということをフレッド・ステックリング氏(アメリカGAP本部代表)が数年前東京へ来ましたとき私に話してくれたことがあります。私はそれまでネルソンの体験に関心がなかつたのですから「えっ、そうだつたのか!」というわけで、あらためて見直したのですが、かなり古い事件ですから資料がまわっていないんですけれども、最近ネルソンの体験記を手しましたので、これからお話ししましょう。

バック・ネルソンとは
いかなる人物か

ネルソンの体験記の原題は My Trip to Mars, the Moon and Venus (火星、金星への私の旅)となっています。つとり早く申しますと、彼は自分の所へやって来た円盤に乗せられて火星、金星へまる三日間かかって行って来たという話です。

いつ頃のことかといえますと、かなり古い事件で、一九五四年の七月三十日です。これが事件の発端です。

ネルソンというのはどんな人かということ簡単に説明しますと、小学校へ六年間しか行かなかつたという、あまり教育を受けなかつた人で、大体に農業関係のいわば小作人としてあちこちの農場を転々としてほとんどアメリカ全土を歩きまわつたという人です。いつときは鉄道員や警官などもやつたことですが、後にトシをとつてからミズーリ州のオザーク高原に三十二ヘクタールの土地を買つて住みついたので。生まれはコロラド州のデンバーの近くとなっています。生まれの州は出生地ではありません。生まれたのは一八九五年四月九日ですが、いま健在なら八十六歳になるはずですが、名前がアメリカのUFO研究界にほとんど出てきませんから、おそらく亡くなつたのではないかと思ひます。

そのネルソンはほとんど教育を受けないう人であつたけれども、非常に正直で誠実であつたそうで、この点はずば抜けていたらしいですね。ここが問題です。こ

ういう人に異星人はコンタクトするのであるということがまずわかります。そして最初のコンタクトが発生したのは一九五四年で、アダムスキーが最初にデザートセンターの砂漠でコンタクトしたのは一九五二年の十一月二十日ですから、すでに二年近く経過していますので、アダムスキーの体験記などを読んでネルソンがでつちあげたのではないかという人があつて非常に非難されたのですが、彼は最初のコンタクトが発生するまで、およそ円盤という言葉を一英語ではフライング・ソーサーと言いますが——まるきり知らなかったということです。

—最初の円盤の飛来— 持病を癒やされる

ネルソンは広い農場で牧畜をやったり製材の仕事などをやっていたのですが、寄る年波で体力も衰えたところから引退した頃の一九五四年の七月三十日の午後四時頃、ラジオを聴いていたところ、突然、飼っていた犬が吠えだしたので、驚いて外へ飛び出たら大きな円盤が三機空中に停止していました。そこですぐにカメラを取りに家の中へ入って、外で三回ほど撮影したのですが、あとで現像してみたら一枚だけが二つの物体を写していました。

カメラを取りに屋内へ入ったとき、懐中電灯を取り出してそれを照らしながら合図をしたのです。そうしたら一機の円盤から強烈な放射線が放射されて、そのため彼は打ち倒されたんです。しばらくひっくり返って、やがて起きようとし

たところ、不思議なことには、それまで彼は腰痛と手の神経痛の持病があつて、このため長年悩まされていたのですが、起き上がったときにそれがきれいに治っていたのです。つまり強烈な放射線で治されたわけです。それから眼もわるくて眼鏡を必要としていたけれども眼も治つて、それ以来眼鏡もいらなくなつたということですから、円盤は飛び去って行きました。

—二回目の飛来— あなたは友好的なりや?

約六カ月後の一九五五年二月一日、昼の十二時頃、また円盤がやって来て、家の上空を低く旋回しながらスピーカーのようなもので大きな声で呼びかけました。「あなたは我々に対して友好的であるか」と尋ねたので、ネルソンはそうだと答えたのですが、このときも着陸はせずに、「また会おう」と言つて去って行きました。

—三回目の飛来— ついに着陸してコンタクト

それから約一カ月過ぎて、三月五日の真夜中にまた円盤がやって来て——円盤というのは忘れた頃にやってくるんですね(笑)。二〜三日後に来ればよきそんなものなのに、どういふわけですかね——真夜中に来て、今度は家の付近に着陸したんです。三十二ヘクタールもある広い土地ですから、着陸も楽でしょう。

三人の男が円盤から出て来て、すごい大きな犬を一匹つれてネルソンの家へ来ました。その三人の男といひますのは、

そのうち二人は地球人で、一人は金星人です。二人の地球人のうち、一人の若い男がいて、これはバツキーと呼ばれ、十九歳で、二年前に金星へつれて行かれてむこうで学習をしたり金星人に英語を教えたりにしたそう、金星から一時的に円盤で地球へ帰ってきたわけです。

もう一人は地球人のかなりな年寄りで名前を全然言わなかつたけれども、顔にシワの寄つた人で、円盤の操縦法を習う練習生みたいなものでした。

もう一人の男が金星人で、ボブ・ソロンという地球式の名前で名乗りました。本当は名前がないのですが、便宜上名前をつけていたのでした。

そのときに本人が話したところによりますと、本人の年齢は地球式にかぞえて二百歳だということですが、見たところ十九歳のバツキーにくらべて二〜三歳しか違わないような若さに見えたということです。だから二十一〜二歳にしか見えなかつたわけです。

それと、金星から大きな犬を一匹つれて来たのですが、これはボーという名のすごい大犬で——これも本当は名前がないんですが、やはり便宜上つけたのでしょう——体重が百七十キロ、あと足で立ち上がったらネルソンより背が高かつたそうです。

彼ら三人はネルソンの家に一時間ほどいて家の中のいろいろな物に興味をおぼえたりしいのです。なにせ高原地帯ですから電線が張つてあるような所ではありませんので、あのような場所では発電機を持っていて自家発電をやっているわけ

です。いまでもアメリカの奥地へ行きますとそういうふうになっています。その自家発電機やラジオなどの装置類に非常に興味をもつて金星人はいろいろ尋ねたり珍しがつたりしました。

そして彼らは金星の生活様式を話してくれて、彼らのベッドは半分壁の中に埋め込まれたように作られており、敷いてある布団のような物は非常に柔らかいふわふわしたフォームラバーのようなもので、体圧を感じさせないものだということです。毛布やシーツなどは洗わず、何らかの方法で処置するらしい。そうした物を出し入れもしない。すべてボタンで操作します。ベッドが不要なときは天蓋みたくなものがかぶさつてきて、ベッドが見えなくなります。床を敷くにはダイアルがあつて、それを操作して自動的にやつてしまふ。一種の自動制御装置を使つているわけです。不精者にはもつてこいですね(笑)。

それから家の中にあつたストープに火をつけたら暖をとつたりすることにも彼らは興味をもちました。ラジオについている蓄電器にも興味をもつて、「これは何をやるものか」と聞くので、「これはパワーをとるためのものだ」とネルソンが説明すると、「パワーなどはこの空間にいくらでもあるじゃないか」と金星人が言うのです。これは素晴らしい言葉です。静電気のことを言っているのでしょう。

壁にイエス・キリストの絵がかけてあつたので、そのことについて逆にネルソンが「どう思うか」と聞いたところ、「みんな知っています。自分たち金星人

にはみなわかつているのですが、本当はあなたがた地球人が何も知らないでいるんです」と答えました。

こうして約一時間ほどいてから彼らは出て行って、ふたたび円盤に乗って飛び去ったわけです。

— 四回目のコンタクト — 宇宙旅行の準備をせよ

四回目のコンタクトは一九五五年三月二十二日の真夜中に発生します。夜の十二時頃にやって来て低く旋回はしましたが、着陸しないで上空から「宇宙旅行の準備をせよ」と呼びかけてきました。

以前彼らが来たときに家の裏手にあった三つの泉の水をくれと言っていたんです。彼らも肉体を持つ人間ですからやはり水が要るわけです。それで彼らが、水を取りにそこへやって来たとき、いつものまにか石を十二個ほど円形に並べていたことにネルソンは気づいたのもんですからあとで「なぜ石を十二個並べたのか」と聞いたら「あれは創造主の十二の法則をあらわすのだ」と金星人が答えたそうです。これも非常に意味深長ですね。じゃ十二の法則とはどんなものかということになります。これはあとで出てきますからもう少しお待ち下さい。

創造主の十二の法則

それからまもない一九五五年の四月二十四日の真夜中に彼らが飛来して来ました。彼らが着陸するのは大体に真夜中です。これはいくら人里離れているとはい

っても地球人に見られたくないということと、ほかに理由があつたことでしょう。(注||この頃アメリカではひんぱんに円盤の目撃や着陸事件が発生して米空軍は神経をとがらせていた)

今度はいよいよ宇宙旅行につれて行くというので、ネルソンはその準備をし、クリーニングからおろしたばかりの一番の上衣が部屋にかけてあつたのを見た金星人からこれを見て行けと言われたので、それを着ます。「ポケットの中には何もないでしょうね」と言われたので、「何もありません」と答えます。もし金属製の物をポケットに入れておくと円盤に乗り込んだときに磁気を帯びて具合が悪いらしいのです。

ネルソンはネコを一匹飼っていました。この名前はクレイジー(気違い)といいますが、これにミルクをたっぶり乗せました。いつ帰って来るかわかりませんからね。トリクシー(いたずら坊主)という名の馬には牧場からエサがとれるようにしておいて出発しました。愛犬のテッドはネルソンに同行することになりました。

宇宙船に乗る前に、ネルソンは創造主の十二の法則を書きとれと命じられたので、手帳と鉛筆は携行してよいと言われていた彼はそれをポケットから取り出して、円盤のそばの岩に腰をおろし、円盤の開いたドアから洩れる明かりを頼りに、言われるとおりに書き記したのです。それは次のような内容です。

(原文ではの.と.となつていますが「神」としたのは宗教臭くなりますから「創

造主」としました)

「金星における創造主の十二の法則

以下の十二カ条の法則は一九五五年四月二十四日、ミズーリ州オザークの農場で金星人からバック・ネルソンに与えられた。この法則を忠実に守るべきであつて、時折、口で唱えるだけではいけない。

愛 || 創造主、両親、隣人、地上のすべての鳥と動物、海中と空中のあらゆるものを愛すること。

尊敬 || 創造主と両親を尊敬すること。創造主の法則に従うこと。それは人間の法則でもある。

服従 || 創造主と両親、その他の正しいものに従うこと。

法 則

1. あなたの創造主を愛すること。
2. 殺してはいけない。事故でも戦いでも。
3. あなたの光を人々の前に照らすこと。あなたの立派な働きを人々に見せること。それは創造主の榮譽である。
4. 隣人を愛すること。
5. 姦淫してはいけない。
6. 盗んではいけない。
7. 他人からしてもらいたいと思うことを他人にもすること。
8. 創造主以外に神は存在しない。むやみに創造主の名を呼んではいけない。
9. 父母を敬うこと。
- 10.

11. 自分の体は創造主のものである。どんな事にも誤用してはいけない。食物でないものを飲食してはいけない。体に害のあるものを使用しないこと。体を損なうものや無益なものを身にまとわないこと。

12. 創造主が天地を作った。人間は創造主が与えた物に感謝すること。」

以上の十二法則は非常に何かに似ています。何に似ているかといえますと、モーセの十戒です。全く同じ部分が何箇所かあります。

こういふふうに言いますと、こりやあもう旧約聖書を読んで、でつちあげたんだらうと言う人があるかも知れませんが、実際にはバック・ネルソンは旧約のことをよく知らなかったようです。

またモーセがエジプトを脱出する途中、実際はスペース・ビーブルに援助され指導されながら脱出したのです。そして途中シナイ山で「十戒」なるものを与えられたのですが、これはスペース・ビーブルから与えられたもので、これが宇宙の法則として永遠に不変なものならば、モーセが与えられた法則も三千数百年後にネルソンが与えられた法則も同じでなくてはならないはずで、違っていたらおかしいですね。そういうふうと考えますと、これはやはり金星人が宇宙の法則として日常応用しているものでしょう。

金星人の話によると、金星はどういう状態かといいますと、この惑星ではこれだけの十二の法則でもって大勢の人が生活しており、軍隊や警察もなく、タバコ、

コーヒー、お茶のような嗜好物は何もない、酒や有害な薬もない。自然の食物を加工せずに食べているから病気はきわめて稀で、したがって病院もない、刑務所もサナトリウムもないし、したがって人間の寿命が非常に長いというような説明をしたということです。

火星へ行く／＼

こうして十二の法則を書き記したあとネルソンは犬をつれて円盤の中へ入りまゝす。この円盤の見取図は非常に興味深いもので、普通の家庭の設備や配置とあまり変わりません。やはりトイレもあり、水を入れる倉庫やシャワーその他のものがちゃんと備えてあります。

円盤の中へ入ったネルソンは、金星人から「あなたはひとつ円盤を操縦してみないか」と言われて操縦盤の所へつれて行かれて、いろんなボタンを押して円盤を操縦させられます。ネルソンはさっぱりわけがわからないけれども、次々とボタンを押したところ、円盤が自由自在に動くので大犬のボーが大喜びします。

そのうち次第にネルソンは方法がのみにこめて、どういうふうによればよいかがわかってきたのです。そしてこの体験は非常に愉快だったと語っています。

この円盤は母船に入らないで火星に直行します。宇宙空間は真黒いインキを流したような暗黒の世界だったと述べています。そして火星に着陸しますが、やはり運河があり、着陸した場所の付近の野原に馬や家畜がいるのが見えたんです。

そのあと統治者の家につれて行かれますが、これは地球でいえば政府みたいなものがあって、これが全体を治めているわけで、この中に最高責任者がやはりいるのです。ここへ行って上など馳走を出されてそれを食べます。

この建物は外側が石でできていたけれども、この石は地球の月から持って行つたものです。内部はある種の鋼鉄で覆われているように見えたと言っています。人々はネルソンが地球から来た人間であることを知らされていなかったようなので、子供たちがまわりにやっけて来て質問をし始めました。

火星にはさまざまな皮膚の色の違う人種がいて、ネルソンは自分と同じような皮膚をした人種の所へつれて行かれたとありますから、やはり白人みたいな人もいるわけです。そして火星は非常に色彩に溢れた惑星だとネルソンは語っています。

月へ着陸する

火星に関してネルソンは以上の事柄を述べているだけで、今度はふたたび円盤に乗って、地球の衛星である月へ行きまゝす。月に降りる前に円盤の内部の気圧を月の気圧と同じにするための減圧処置がとられます。だから月には多少とも空気があって、減圧処置を受けておればヘルメットなどかぶらなくても月の地面へ降りられるということがこれでわかります。ネルソンの乗った円盤は月の表側に着陸し、また統治者の家に行つて食事をし

たのですが、この統治者の家はクレーターの中に建てられており、最初に入った部屋は統治者のいる部屋の隣にあって、ここには望遠鏡があったんです。そこにはガラス戸のついた棚があり、岩石の標本等を並べたテーブルがあったということです。

月面の採石場は別な惑星の非常に古い建物のために石を供給します。たしかに月面は岩石が非常に豊富ですから、これが資源の場所になっているようですね。月の表面には植物は生えておらず、家庭用の水は山の雪からとられ、人々の住む家は基地として使われている大きな格納庫のまわりに建ててあるということ、太陽系のなかで別な惑星と行き来をしないのは地球だけだと語っています。

月の裏側には川と湖があるとネルソンは教えられて、あとからその側へ円盤でまわつて着陸したけれども、あまりにかすんで非常に高い山が見えただけでした。この月への二回目の着陸のときにまた食事をしています。どうもメンバばかり食べていますね(笑)。今度の食事でも腹一杯食べたそうですが、なにか宇宙旅行には充分な食事と睡眠が必要のように思われたとネルソンは言っています。

彼は外へ出て歩いてみることを許されたので、迷子にならないように建物をよく見て歩き、犬が二匹彼にくっついて来ます。月に住む家族の子供たちがいるんな大きな犬と遊んでおり、大犬のボーの上に小馬のように乗ったりし、ボーも子供たちと楽しそうに遊んでいたということです。

ここまでが月の説明でして、これからふたたび円盤に乗ったネルソンは金星へ行きます。

金星に到着

金星に着いたときネルソンは全く時間の感覚を失つてしまい、地球を出てからどれぐらい時間が経過したかわからなくなりしました。

金星でも二度ほど着陸して、また統治者の家へ行きます。そして三つの月を見ました。これは金星の衛星ですね。外は地球の昼間のように明るかったが、霧がかかって曇っており、家は石で建てられ、内部は金属みtainいもので作られていました。

それから地球の自動車に似た乗物があったけれども、車輪がなくて、地上から数フィート離れて空間に浮かび上がっており、これは宇宙船と同じパワーで滑空するのです。したがって地球のような大きな道路はありません。もちろん警察もなければ監獄もないし、政府の建物や戦争などありません。病気もないから病院もない。

金星人が一日でどれぐらい働くかといいますが、一時間です。一日の長さというものが大体に地球より長いのです。

ここで時間の問題が起こってきます。先月(二月)の東京月例会における私の講演の中で「時間は本来ないのである」とお話ししたところ、俄然大反響が起こったんです。さすがにGAPの会員の方々には哲学的な深みがありますから、

こんな面でも真剣にお考えになるよう、大変喜ばしく思います。時間というものには物理的時間と哲学的時間の二通りに分けて考えられますが、私が話しますのは哲学的時間でして、あるような、ないような、あると思えばあるし、ないと思えばない、というような、そんなものなんです。

時間の観念というのは、人間には現象の持続感、たとえば自分の体が生まれてから長いあいだ保たれてきているというような持続感がありますから、ある程度は時間のフーリングが起こってきます。そのためにむかしから、特にギリシア哲学のアリストテレスやプロティノス以来、時間が論じられ、近代ではカントが「時間とは直観の形式」と説いています。これはむづかしい表現ですが、なんのことはない、時間というのは人間のフーリングできるもので、あるような、ないようなものだということです。

それで本当は、時間というものは、ないと思えばないと言えるところですが、しかしこれでは世の中の統制がとれません。「時間というものは存在しない」というので、昼頃会社へ行って一時間くらいいて、「時間は存在しないんだから帰るよ」と言っただけ、いっぺんにクビになるでしょう(笑)。これではいけないので地球では一日を二十四時間と分けて、それに従って生活をしているわけです。これは物理的な時間です。

金星ではどうかといいますと、金星人は地球人とはまるきり時間の観念が違うようですが(注IIだから地球人のように

早く老いない)、しかしやはり人間の行動の統制を保つ上で必要なのでしょう。一応時間はきめてあるんです。つまり金星では一日のうち昼を十七時間、夜を十七時間とし、一昼夜を三十四時間として、一時間は地球の一時間と同じ程度だとネルソンは説明しています。

(注II金星の自転については金星を覆っている雲のために地表が見えないので、一九六四年までは不明であったが、この年レーダーによる観測をシャピロが行い、六九年にはカーベントナーがレーダー観測により自転周期を二四二・九八一一〇・〇四日と算定した。しかしこれでは二二四・七〇日という公転周期よりも長いことになり、非常に奇妙な自転をやっていることになる)

地球式に言っただけ金星人は一日に一時間しか働かないのならば、あの時間は何もしてないで寝ころんでいるのかといえます。そうではなくて、いろいろ学習をしたり宇宙旅行に出かけるようですね。巨大な宇宙船を持っていますからね。

これはネルソンの話ではなくて、最近ステックリング氏から来ました手紙によりますと、なんでも進歩した別な惑星では長さ三十マイルの巨大船を建造しているというのです。三十マイルといいますが四十八キロメートルで、五十キロメートルに近い長さです。五十キロメートルといえますと東京駅から直線距離で千葉県の成田駅あたりまでになります。ものすごい長さです。想像のつかない巨大な母船で、もちろんその内部は宇宙都市になっている、この中で生活しながら太陽系

から太陽系を旅するのです。旅というものを重視しているわけですね。

さてネルソンの話に戻りますが、彼は金星に二度着陸しました。それぞれの着陸時間は二十分くらいだったろうということですが。また彼は十七時間に刻んだ時計の文字板のようなものを見ました。これには数字のかわりに奇妙な文字みたいなものが記してあったけれども、これは中国の漢字よりももっとわけのわからないものだったと語っています。

金星で出された食事は肉、ミルク、タマゴ、魚、各種のサラダと調理された野菜などですが、地球のものとはだいぶ質が違おうでしょう。トウモロコシのようなものが混ざっていたのがわかったということですが。

こうしてバック・ネルソンは金星から帰ってきました。一九五五年四月二十七日の真夜中に自分の家のそばに着陸して無事に自宅へ帰ったわけですが、そのときは何月何日かさっぱりわからなかったけれども、ラジオを聞いたりカレンダーを見たりして、自分がまる三日間留守をしていたことがわかったんです。

ネルソンの宇宙旅行の補足

火星や月や金星にいる人間は地球の人間と非常によく似ているけれども、一般には地球人よりも美しい顔をしています。

彼らは非常に簡単な物を着ていて、ネクタイ、バックル、首飾り、腕輪、耳飾りのような物は一切使わない。装身具を使用しないんです。体を束縛するような

物は何も使わない。これは創造主の十二の法則に従っているからです。男はモモヒキに似たゆるやかなズボンをはいており、バックルや飾りボタンなどは全然なく、生地は地球のものとは違っています。異星人も多少は肉食をしますが、彼らの食物はおもに果物や野菜から成っているようです。病気はきわめて稀で、見た限りでは彼らの歯は非常にきれいです。

病気の治療法については彼らに尋ねてみたら、「自分たちはただ創造主の法則に従って生活しているだけです」と答えました。もちろん医者はいません。彼らは自分自身が一種の医者なのであり、必要なときには大自然の薬を使うと言っています。これは具体的にどういう物かよくわかりません。それで金星へ行ってから水が変わったためにネルソンの体に湿疹みたいなものができたので、むこうの人がローションのような乳液をくれたのでそれを体に塗ったということです。

激しいスポーツや競技は決してやりません。あまり激しいことをやると心臓に緊張を起こして体のためによくありません。

ネルソンが会って話し合った相手は上手に英語を話しました。彼らはいずれ実際すると思われる地球の人間の言語を勉強しているようです。そして地球人のあいだにも彼らの多くの仲間が混ざり込んでいると教えてくれたし、地球の政治家のうち何人かが彼らの宇宙船に案内されたことがあるようですが、そういうことをおおよかにすると、その政治家たちは非常に危険になるので、みな黙り込んで

言わないのだということだ。

ネルソンは山中の一軒家に一人で住んでいる独り者ですから、彼の身に何が起ころうと悲しむ家族はいません。だから彼が自分の宇宙旅行についてしゃべったところでなんともないというわけです。

これが重要な点です。異星人は、こういうような、あまり教養が高くなくて、しかも非常に誠実で正直で実直で、何物をも恐れない、百パーセント異星人を信じて喜んでついて行くというような人、しかも山の中に独り者として住んでいて、周囲は広い、というような人がなにか非常によい条件を満たすようできて、うらやましいことですね。東京のド真ん中ではどうしようもない。

で、ネルソンは脅迫されたわけではないが、もし彼が宇宙旅行について二度と話をしないのなら、といって千ドルの小切手を差し出した人があるのですが——つまり金で沈黙させようとしたわけですが、この千ドルは山の中では相当に価値のあるものだったけれども彼は受け取らなかったのです。

もう一つ非常に重要なことは、なぜ異星人が、ネルソンのとき貧しい一凡人の所にやって来るかということが地球人に理解できないだろうということです。彼は山中の淋しい場所に住んでいるのですが、なぜそんな所へやって来るのか、という点が地球人にはわからないけれども、このことは異星人のほうからこうした必要が起こるのだとネルソンは言っています。これはコンタクトするような条件を満たす人でないとダメなのです。地球人

は異星人と知ると、まず撃ち殺してしまおうでしょうが、そういうことをしない友好的な人間であることが最も重要な点だと彼は述べています。

もう一つはネルソンの住んでいた場所が円盤が来るのに磁力の関係で都合のよい場所だったらしいのです。

円盤の大きさは、幅が十五メートル、高さ二・四メートルぐらいのもので、あまり大きくはありません。離着陸は真夜中がよく、ネルソンの乗った円盤は、彼が自分の体験以後に読んで知った巨大な母船の中には入らなかったということです。円盤は自力で惑星間旅行をやったので、円盤は三層になっており、頂上のドームの部分はガラス状になっていて、これは透明で、この部分だけが回転するため方向転換が楽に行われるのです。しかも円盤は自動操縦装置により安全に操縦されます。

異星人は

だれを助けるか

別な惑星の住民の生活は全くわずらわしさから解放された楽しいもので、彼らは創造主の十二の法則によって生活を、戦争、軍隊、警察、刑務所などをなくしています。

地球上で用いられているお金は別な惑星では絶対に受け入れられないものとネルソンは強調しています。貨幣制度がないんです。貴金属としての金の振動は体のためによいので、家の内外にふんだんに使っているということです。

もし地球に大変動が起こるとすれば、

その一つは、地球の聖書の「大洪水」に相当するものだと書いています。言い換えれば島や大陸が海中に沈下したり隆起したりするのでしょう。それで異星人は、地球人のおかげで彼らを兄弟として受け入れられる人々を助けてくれるだろうというところで、こうした友好的な地球人が、だれであるかは異星人にわかっているようだとネルソンは語っています。

彼らはたしかにテレパシーを応用しますが、ある限度以上になると声を出して彼らの言葉を用いるのです。

最初にやって来た三人の男の一人の地球人パッキーですが、この少年はコロラド州に生まれて十七歳のときに金星につれていかれたのです。したがってネルソンの家に来たのはそれから二年後のことです。そのパッキーが四歳のときに金星人がパッキーの家にやって来て、家族を金星に案内しようとしたんですが、両親はことわつたので、金星人はのちにパッキーだけを金星につれて行ったわけですが非常に正しくて、誠実で正直でなくてはならないようですが、もっと深く考えればカルミックなものがあるでしょう。どんなにコンタクトを望んでも、どうしてもそれができないという人は、カルマという点で無理があるのではないのでしょうか。あるいはコンタクトしたばかりに、かえって本人に災いが生じるということを異星人から見透されてくるのかもしれない。

さて、ネルソンが最初に円盤の内部を見せてくれないかと頼んだとき、相手は

何も言わなかった。返事をしようとしなかったんです。それでネルソンが別な惑星へつれて行ってもらえるかと尋ねたとき、彼らは気持を動かされたらしく、あつて大衆に体験を発表するのならば、つれて行ってよいと答えたんです。どうやら「尋ねてみる」ということが必要のようだとネルソンは言っています。結局ネルソンという人は体験を発表するほどの勇氣ある人物だったということがコンタクトの資格となっていたようです。

ネルソンは体験を発表して、あちこちで講演をやって歩いたんです。そしてずいぶん多くの科学者から質問を受けて月の状況や別な惑星の状況などを聞かれたんです。かなり真剣な態度で質問した科学者もいるらしいですから、科学者のあいだで相当に月や別な惑星に付する関心が高まっていたと言えるようです。

いまでは一般人はそんなことは（太陽系の別な惑星に偉大な人類がいて、空艇を駆使ながら地球へ来るというようなこととは）全くあり得ないことで、まるで子供だましなことだと言っているのがオチですが、実際はこうしたコンタクト実話はある力によりねじ伏せられてしまつて、真相は一切隠されてしまつたという状態ではないまは——。

ピラミッドの謎を解き明す

ネルソンの話に戻りましょう。彼が月へ行つたときに、あるクレーターから別なクレーターまで巨大な長い橋がかかっているのを見ました。これもむかしニユ

「ヨークのオニールという科学記者が望遠鏡で月を観測しているときに“橋”を発見して有名になった事件がありますが、なにかそれを裏付けるような目撃報告で(注)ただしオニールの“橋”の目撃は一九五三年七月二十九日の夜のこと、ネルソンの目撃よりも一年八カ月前のことである。しかしネルソンは“オニール橋”のことは全く知らなかった)、この橋は宇宙人が建設したもので、この橋の低い空間を例の“乗物”がゆっくりと滑空するのだとネルソンは言っています。

更にネルソンは、地球で核兵器を作らないことや核戦争をやってはならないことを強調しています。

彼が円盤に乗っているときに、ドームの頂上にピラミッドの紋章がついていたので、これはどういうものなのかと尋ねたところ、金星人は、自分たちは地球の文明が何度も低下したのを見て知っていると言いました。

アトランティスの大文明

次にアトランティス大陸のこともネルソンが語っています。それによりアトランティスの民族は非常に宇宙の法

則を重んじた民族で、賢明で力強く、学術を究めたのですが、次第に創造主を忘れてしまつて、娯楽のために時間をつぶすようになり、結局、墮落したというのです。

戦争好きでな民族ではなかったけれども彼らは原子力以上のある強力なエネルギーを研究し、その実験のために大都市の地下にいくつも巨大なトンネルを作っていたのですが、この新しいエネルギーが次第にコントロールできなくなり、みづから作り出したエネルギーによってアトランティスは滅亡したのです。そして海中に沈下したのですが、これは大洪水が起ったことを意味するわけで、これがいわゆる聖書に出てくる“大洪水”のことだと言っています。このときに北アメリカ大陸が海から隆起したそうです。金星にはアトランティスが沈んだときの記録があるそうで、アトランティスから脱出して助かった人たちが北アメリカ大陸の洞穴に住んで原始的な状態にもどったのです。この地球上の人々が太古から増減するのを火星や金星の人々は見ているのですが、ついには多くの惑星から好ましくない人間たちを地球へつれて来て、働かせ、自分たちの問題を自分で処理させたので、それで人口が増加したいというのです。

一九五六年六月二十一日にネルソンがワシントン市のドレッセルホームの部屋でラジオを聴いていると、突然番組が中断してパッキーの音が響いてきました。オザーク高原のネルソンの家の庭に大勢の人が集まっており、馬や家畜などの世

話をしているから安心せよという内容です。特にネルソンを支持したジャーマン・ラウエリーの家族も留守中の面倒をよく見ていました。ラウエリー夫人はネルソンを心から尊敬した婦人で、ネルソンの体験記の序文を書いています。

現在(一九五六年)アメリカには千五百人ほどの、火星と金星から来た人々がひそかに住んでいて、地球人を援助している。ネルソンは言っています。もちろんこれは二十五年もむかしのことですが、いまの人数はもっと違うでしょう。

米政府の官吏で別な惑星につれて行かれた人が何人かいて、その人たちがネルソンにそのことを告白したということですが、そしてネルソンにむかって、講演では別な惑星の実態をもっと思いきり話してほしかったと残念がっていたそうです。

一九五六年七月にネルソンはミシガン州グラッドラビッツに住むロドニー・パーレス一家に招待されたとき、デトロイトからリー・チルダーという人も来ていたのです。ところがこのチルダー氏も実はコンタクトマンであつて、巨大な宇宙船に乗せられた人で、この人が異星人から聞いた話はネルソンが語つた話とほとんど同じだつたということです。したがつてコンタクトマンというのとはわりとあちこちに潜在しているようです。

ネルソンは別な惑星へ行くときに小さなアメリカの国旗を持って行って、月に一枚、火星に一枚、金星に一枚ずつ置いて来ました。それにはネルソンの名前が記してありますから、後にだれか地球人がその惑星を訪れたときにその旗を発見

するだろうと言っています。

以上でバック・ネルソンのコンタクトについて概要をお話ししましたが、彼が発表した当時、円盤雑誌類を読んでストリーをでっちあげたのだと非難する人がかなりいたのですけれども、ネルソンは生活が苦しくて、そんな雑誌を買う金はなかつたし、円盤のことは何も知らず、病身のために自分の農場以外の世界を歩かざることは不可能であつたことや、アダムスキーの「宇宙船の内部」(俗に「同乗記」といわれる本)はネルソンが体験を発表した当時、まだ原稿が印刷所に行つていて書物になつていなかったのだとラウエリー夫人が証言しています。

なぜネルソンのような人がコンタクトマンとして選ばれたかといいますが、その頃アダムスキーの体験を知らないと、しかも無学ではあつても正直で誠実で、その他のあらゆる条件を満たす人を選んでコンタクトし、更に体験記を発表させることによつて、アダムスキーの体験の傍証を出すために、このような事件が持ち上がったのではないかと考えられます。時間がありませんので、これでおくことにしましょう。

付記

バックネルソンの家へ円盤が飛来したとき、付近の民家の住民でこれを目撃した証人が数名いる。その他、ネルソンは別惑星から物的証拠を持ち帰つたけれども、人々から全く相手にされなかつたらしい。彼が撮影した円盤写真は入手不能である。

すが、新宿駅西口の小田急線改札口の所に電話機がたくさん置いてあります。そこから電話をかけたときのことですが、ダイヤルを回すときにすでにフーリングがわき起こったのでしようか、当時、私の母が厚木の家に遊びに来ておりまして一週間ほどいました。今年で八十歳になりますから、かなり高齢なので遅くとも夜九時までは床に入るんです。そして私が電話をかけたのが十時半頃でしたが、ダイヤルを回しているときに、「この電話は妻が出ないで、絶対に母が受話器を取るよ」というフーリングが起ったんです。そして妻と子供たちは風呂に入っているというイメージが浮かびました。

そうすると、まさしく私の印象どおりに母が受話器を取りましたし、あとで聞いたら、その時刻に妻と子供たちは風呂に入っていたということでした。これもやはり何かあるんじゃないかと思っただけですが、こうした予知は当てようと思っても当たるものではありません。ただ普通に生活して突然フーリングがわいてくるのですが、実際にそのとおりになるんです。

やはり書留は三通だったよ!

五番目ですが、これは一昨年のことです。この年は日本GAP企画第一回のアメリカ中米宇宙考古学の旅を実施した年です。

これも私がフーリングとして感じたのは、新宿駅西口の小田急線の改札口を

出たからです。ここの地下一階の階段を降り始めたときに、急に強いフーリングが起こってきました。それは「旅行の申込の書留便が会社へ三通来ている」というものです。これはいまでも覚えていますが、かつてないほどの強烈な印象でした。

そこで階段を降りてから会社へ電話をかけてみましたら二通しか来ていないという返事でした。そこで「三通来ているはずだから、もう一度見てくれないか」と社員に言いましたら、「いや、田中さん、二通しか来ていません」と答えるんです。「ああそうか」というわけで私はあまり気にしなかつたんですが、いままで自分で体験したことを考えますと、数字まで印象としてくることは少なかつたのですから、「これは三通に間違いないよ」という確信をもって、翌朝、出社して、岩本さんという方に、「書留が三通来ていたんじゃないですか」と聞きましたら「あ、申し訳ない。もう一通来ていたのに、私が金庫にしまっておいて外出したので田中さんに言うのを忘れてしまった」というわけです。他の二通を受け取ったのは岩本さんとは別な社員ですからやはり私が感じた日には合計三通来ていたわけです。これはいまでも最も強い印象として残っています。

ローマ空港で出てくるのだよ!

最近はいメージが心の中に浮かんでくるようになったと思います。一昨年の三月下旬から四月上旬にかけて、GAPの

旅行とは別に、幼児教育者の幼稚園の視察団体旅行でヨーロッパへ添乗員として行きました。

これも何日だったかよく覚えていませんが、ロンドンのヒースロー空港で、わずか二〜三秒のあいだに私の黒いアタッシュケースが盗まれたんです。(編注|| この空港は世界一泥棒の多い空港として名高い)。内部にはたいした物が入っていませんでしたが、そのとき「やられたな」と思いましたものの、「黒いアタッシュケースは絶対にローマ空港のベルトコンベアーに乗って出てくるよ」というイメージが単なるフーリングよりも強く浮かんできたんです。

それでアタッシュケースが盗まれても旅行をやめるわけにはゆきませんから、旅行は続けたのですが、気になりますので現地の旅行会社の人と一緒にローマ空港へ行きましたところ、やはり私がイメージで描いていたのと全く同じかたちで黒いアタッシュケースが出てきました。

強烈なイメージと信念で奇跡が生じたよ!

これは少数のGAP会員の方にお話ししましたが、昨年の六月にグアム島へ行きました。行ったというよりもあるお客さんからアメリカのビザだけ取ってくれないかという依頼を受けて、まず申請をしたわけです。

アメリカという国は入国のビザがいろいろあるのですが、なかなかきびしいんです。そのかたは四泊五日の旅ですが、歌手の野口五郎さんのグループと一緒に

行くことになったわけです。野口五郎さんはむさうで歌をうたったりしますが、私のお客さんはそのインタビュをするというのです。時間で二〜三分ですから観光旅行でいいんじゃないかというわけでも私も観光旅行のつもりでビザを申請しましたところ、アメリカ領事館でひっかかりました。

そこで事情を説明に行きましたら、これは観光旅行じゃなくて業務旅行になるので、業務のビザを取ってくれといってパスポートを返されました。アメリカの場合は宙に浮いているものをキャンセルするわけにはゆきませんから、それから処理する必要が起こつたわけです。

それから十日間ほど期間があつたのですが、十日間でビザを取るのはだれがやっても不可能だと思います。現在でもそうでしょう。

ところがパスポートをつかえられた時に、十日間しかないのですが、「これは絶対に私がグアムへ行つてアメリカのビザをとって本人の事務所まで渡しているのだよ」という、イメージと信念みたいなものが非常に強くわいてきたんです。これは絶対に間違いない私が行ってビザが取れるんだという信念の方が強かつたと思うんですが、このとき初めて信念の大切さを感じました。

それじゃ、とにかく行くとういうわけで、通常なら一カ月以上はかかるのに十日間で取れるんだと確信して、次の日に飛行機を予約してグアム島へ行きました。たまたまグアム島の関係者とお会いして話をしましたが、「もう遅いですよ。

あなたが来られたのは嬉しいのですが、あと十日間ではビザも取れませんし、私も何もできません。もしもう一度私とあなたとでグアム島の移民局へ行ったら、野口五郎さんのグループ全体がおかしくなってくるでしょう」と言うのです。そこで、そこまで私としては責任を負えないので、あなたの方でビザを取って下さいとお願いました。すると相手はダメだと言う。こちらは「お願います」を繰り返しながら十分ぐらいたちました。そのあと、しばらく沈黙が続きました。それから二十分ほどして、相手がどう判断したのかわかりませんが、「とにかく移民局へ行ってみましょう」と急に言いだしました。そのとき私は「絶対にビザが取れるんだ取れるんだ」間違いない取ってお客さんにパスポートを渡せるんだ」と内部から想念を送ったんですが、その関係でしょうか、ビザが取れたんです。

相手はあとで、そのとき自分で、どうしてその気になったのかわからないと言っていました。

やはり、信念を持つということはずごく大切なことではないかと、私は自分の仕事を通じて体験し、痛感した次第です。それは以前にお話ししましたフィリピンと関係はあるでしょうが、フィリピンとわいてわいてくるだけではどうしてよいかかわらないことがありますけれども、とにかく信念を持つことがやはり大切で、絶対にあきらめないで、「絶対にできるんだ」という大きな信念をもつことが重要だと思えます。

昨年河口湖の旅行に行きましたとき、静岡市の野口さんから皆さんに配られたお土産のコイン入れをグアムへ持って行きましたが、その裏につきぎのように書いてありますので、非常に素晴らしい物を贈っていただいたと喜んでいきます。今後

宇宙哲学で 運命が好転した！

篠 芳史

この記事は去る二月七日、東京月例会で行われた講演の筆記録である。篠氏の宇宙哲学の実践により急速に職業と環境が好転したという素晴らしい体験談は読者にきわめて有益である。

X X X X

皆さんこんにちは、ただいまご紹介いただきました篠でございます。私はGAPに入会致しましてから五年になります。ここで講演ができることを大変嬉しく思っております。これもひとつのレッスンであろうと私も一生懸命がんばるつもりであります。

私ができるようにアグムスキー哲学を知りGAPに入会したか、又皆様と会うことができましたか、その経過とその後の私自身の変化と生活の体験をお話したいと思えます。

も信念をもって堂々と生きてゆきたいと思っております。

「信念のある人は見えないものを見、信じたいものを信じ、不可能な物事を可能にする」。

《信念こそパワーだ！》

アダムスキー哲学との出会い

まずGAP入会の動機ですけれども、私の年齢は自分自身ではとても若く思っておりますが、実は今月末で三十九才になります。

話はさかのぼりますが、小学校五年の当時、初めて宇宙を学校で教わりましてそのときに太陽系の平面図を見て大変驚きました。改めてみる地球が浮かんでくるからです。

当時は昭和二十七年頃ですけれどもTVはありませんし、今のようには絵本とか、そういう書物はあまり出ておりません。

ですから今の子供達のような知識はあまりなかったわけです。足元を見て、この地球が浮いているということは当たり前

ですけれどもとても神秘でした。それ以後、宇宙には大変興味を持つようになりまし。その宇宙に、運動の法則、自然界の法則があることがわかりました。

子供ながらもそれでは自然界に法則があるのならば地球だけに生物がいることはおかしいと思うようになったわけですが、どこか遠い星にも必ず生物がいる。また人間以上に進歩した生物もいる、と思いつながら空を見上げたものでした。

また私自身が生まれて来たことに関しても私はなぜ人間として選ばれたのだろう。植物でもよかつたのに、小鳥でもよかつたのに、海岸の一粒の砂であっても不議ではないと思っております。それに死んだら真暗闇になるのだろうか、そんなことを子供心ながらに考えていたわけです。

中学、高校は普通に一般の人と同じように過ごしたつもりでしたけれども、ただその間に私が大変興味を持ったのは、宇宙を始めとして自然科学と発明発見等でした。

過去から現在、現在から未来へ科学の進歩をすることにおいて、未来には現在知られていない事柄でも必ず証明されると思っております。現にガリレオが「それでも地球が回っている」という「地動説」を唱えたのは一六三二年で、今から三五〇年前のことでした。今は小学生でも知っていることです。

ライト兄弟が初めて動力飛行で空を飛んだのは一九〇三年で約八〇年前のことです。その後人類は月にまで到達するこ

とが出来たのですが、その科学の進歩は時間の経過と共に加速度的に増大しているわけです。また子供の頃夢であったことが沢山実現しているわけです。

そんな頃に私は空飛ぶ円盤に興味を持ったのです。多数の人達が目撃しているのに否定するのはおかしい、それは事実ではないか、必ず実在する、証明される、と信じておりました。

私が死ぬまでには必ず実在することをわかってもらいたい。また、否私は科学が進歩しているであろう次の時代にどうして生まれて来なかったのであろうか、証明されるまで長生きしてその実在の証明に間に合いたい、と本気で思っていたわけです。

そこで、円盤の飛行原理だけでも素人に簡単に分かるような書物はないものか、ずい分探しましたが、言葉でいう「反重力」などと書いてありますけれどもサツパリ意味は分かりませんでした。

そんな時「G・アダムスキーは金星に行った」という文章が目に入ったので、G・アダムスキーの本を一生懸命探しましたが見つかりませんでした。それから一年程して偶然に書店で「空飛ぶ円盤同乗記」を見つけ読んで、これで又大変感動したわけです。

当時の私の感動は言葉ではいい表せません。アダムスキーの表現力は、大変美しく、力強く、英知ある知識を分かり易く教えていました。勿論、久保田先生の訳が良かったことがありますけれども、私の知りたかった円盤の飛行原理は私なりに理解する事が出来ました。科学者

ではありませんので、奥深くは突き止められませんでした。たまたま私が学校時代電気を学んでいた関係で、それらの知識から分かる事が出来たということです。

その他自然界で知りたかった事も分かりモヤモヤがなくなつたという事で、それ以上にその本の中に私が予期しなかつた「宇宙哲学」を知る事が出来たのは、これは何と幸せだつたのでしようか。これには今でも大変感謝しております。この本を読んだのが昭和五十一年二月で三十四才の時でしたから今から五年前のことです。

進歩には努力と体験が必要

アダムスキー哲学を真実と認めた結果は、自分自身が進歩したいと願いました。しかし私は社会の中に染まっていたのでした。自分自身のエゴを少なくするのには大変努力しました。現在も努力中です。またアダムスキー哲学を単に認めた事で理解出来たと誤解していません。それ自体がエゴでした。それに気付くまでのマインドのバランスの悪さと苦労はまた大変な事でした。これも今では大変な思い出になりますけれども、振り返って見れば進歩するための努力だつたことが分かりました。

私は思うのですが進歩するためには努力と体験が必要だと思えます。それは登山の様なものだと思っております。目的である高い山に登りたいためには手前にはいくつつかの小さい山があります。その

ために、一つずつ山を越えて行かなければなりません。一つ登りまた次の小高い山に向かう時には、その小さい山の谷へ下りなければなりません。それは途中で途切れたふうには思えませんが心配のないことだと思えます。必ず目的の高い山に向かつているからです。それには忍耐と信念が必要だと思いました。

私が努力と体験とはどういうことをすればよいのか、実際にそのような体験にあたること自体がまずなかなか見つからないものです。私自身平日頃行なっている事をちょっと話したいと思えます。マインドを穏やかにする為と素直に反省することを私は目的としたのですけれども、これはいつも持ち歩いている物ですが、(背広の内ポケットから小銭入れを出し、その中から小石と便箋の折りたたんだものを取りだしながら)これはGAPの会員の方からいただいたデザートセンターの石なのですけれども、これをお守りとして持っているのではなく、これに触れる事によって自分が気付くというふうに使っております。

(便箋を揚げながら)またこの中には久保田先生はじめ皆様方に教わつたことを書いてあるものがありますが、ときどき電車の中でも喫茶店の中でも何かの折にこれを見るわけです。ちょっと読んでみます。皆さんご存知のことです。

愛とは忍耐強く親切にすることです。
愛とは嫉んだり思いがつたりしないことです。

愛とは自慢したり利己的になつたりし

ないことです。

愛とは不作法にならないことです。

愛とはいらいらしないことです。

愛とは恨みをよるべきでないことです。

愛とは悪をよるべきでないことです。

愛とは真理をよるべきことです。

愛とはあきらめないことです。

この信念と希望と忍耐があれば、決して挫折することはありません。

信念のある人は見えない物を見、信じがたいものを信じ、不可能な物事を可能にする。信念こそパワーだ。

宇宙的に生きる。

他人に不快感を与えず、調和した生き方をする。

生活を簡素化させる。物欲にとらわれない。

こう書いてあるのですけれども、私は何もこれを全部実践したり全部理解したりということではなく、これを読むことによって本当に心が静まります。これは私がいちも持ち歩いている物です。

それともう一つは、毎日カバンを持ち歩いているのですけれども、その中にはアダムスキーの著書を必ず入れておられます。電車の中で通勤時間が長いものから大変よく読む事が出来まして、読んだ回数をおぼろげに覚えておられます。宇宙からの訪問者” “生命の科学” “宇宙哲学” “テレパシー” またその他にアダムスキーの著書もありますが三回以上読んでおります。

久保田先生もおっしゃられたことですけれども、読むたびに理解度が違い、またその時々々に気付くことが沢山あると思っております。

その結果、私も長い間に変化していることに気が付きました。しかしそれが進歩しているのかと思つた時もありましたけれども、またエゴが少なくなっているなと感じた時もありました。これがマインドが意識に従っていることであろうかと思ふようになってきました。

「生命の科学」にも書いてありますが「心としての私は意識である父の行う物事以外の何もしない」。多少自分なりに分かるキツカケが見つかつたような気がしてまいりました。

進歩したと思つておりましたが、エゴが少なくなつた自分自身に大変興味を持つようになりまして。

信念の力で人生を変えた!

これからは私の体験談になりますけれども、(私事で大変恐縮なのですが)禁煙したこと、手話を習い始めたこと、また家庭でのこと、先程紹介の時にありました、会社を退職したことなどについてお話ししたいと思います。

禁煙のことですけれども、今から二年前の三月です。昭和五十四年三月になりますけれども、アダムスキーの「宇宙からの訪問者」の中に、地球人の奇妙な習慣としてのタバコを吸う行動のことが書いてありました。それを読みまして、十八年間タバコを吸っていたのですけれど

その本数がまた大変なもので、やめる一年ほど前からは、一日四十本から五十本やめる半年ほど前には、私は囲碁が大変好きなものですから、碁をやりながら、のべつまくなしにタバコをふかしておりました、その時は確実に一日六十本吸つておりました。それも強いと言われるショートホープで、人に強いと言われても私自身はショート以外では吸えない人間になつておりました。

丁度、アダムスキー哲学を認めるだけでは理解出来たということではない、という誤解に気がついた時でしたので、何か一つずつでも、少しずつでも体験出来たらと思つていた時でしたから、では禁煙してみようか、と言う軽い気持ちも良かったのであらうと思ひますが、禁煙してみました。一日、二日目はやはりちよつとつらくて人からタバコをもらつたりしましたが、三日目からはガマンです。一週間してから何でもなくなりまして。禁煙することも英知ある教えであつたので出来たことだと思つております。

手話による奉仕活動

それから、こんなささいな事でも体験出来るものをつつ積み重ねようと、やれば出来るからあらゆることに拡大してみようと、そう思つたわけです。

それまでの私は、GAPの月例会には波動に触れることだけで、何もキツカケがつかめなかつたのです。正直言いますと、GAPの月例会は、私自身一ヶ月ごとのマインドのクリーニングに来るよう

なものだつたのです。ですが禁煙は私に未来への希望への糸口となつたわけですから、その頃気がついてみましたら、円盤に對する興味から宇宙哲学が変わつていきました。これがマインドが変化したと申すのでしようか。その時には何か奉仕をしたいと思ふようになっておりました。

奉仕と言ひしてもそれは仕事があるので大変難しいことなのですが、しかしこのままでいるのがもの足りなく感じ、私に適する奉仕は何かないものであらうか。そんなふうを考えておりましたら、そんな時にこのGAPの月例会場で会員の方が手話の話をされました。「これだ」と思ひまして、早速私の住んでいる秦野市の手話サークルに入りました。手話とは、ろうあ者の言語のことです。

奉仕するために手話サークルに入りましたが、具体的に手話を使つてろうあ者の為にとのようになつて奉仕するかはいまだ分からなかつたし、自分では決めていなかつたのです。とにかくマインドの変化に伴つて、キツカケが欲しかつたわけですから、その結果は大変素晴らしい体験でした。

私も今まではあらゆる身体障害者に対して同情はしましても、何もしてやれませんでしたが、またしてやりたくても気遣いをして、彼等の喜びの感情は素直な波動として確実に伝わつてくるのが分かりました。社会の中で何らかの差を感じているその方々が手話サークルにいる時は、愛を感じているのが大変よくわかりました。単純な日常会話だけですけれども、お互いにリラックスして楽しく過ごすことが

出来たのです。サークル以外では、私の近所に団地なのですけれども、二家族のろうあ者の家族がおります。休みの日など、ときどきお互いに家に行き来したりしておりました。

ろうあ者の社会人としての努力は並大抵でないことが分かりましたし、またその現実の中で大変素直に生きている姿には私も学ぶことが沢山ありました。手話はアダムスキー哲学と同じようにあせらずゆつくり続けて行くつもりです。

自然との一体化

私の家庭ですけれども、四人家族で、家内と長男、次男です。長男は十歳で小学校四年です。次男は七歳で小学校一年です。

神奈川県秦野市に住んでいまして、環境は大変恵まれております。富士山、丹沢、箱根の山は毎日家の窓から見る事ができます。平塚や大磯は自転車を使つて一時間程の所にあります。

自然の中で万物と一体化して気持を落ち着かせるのは最高の場所だと思つております。一家でハイキングやサイクリングはたびたび行つております。

休みの時などは一家で子供を連れたり色々出かけるのですけれども、子供達も近所の子供達と遊んでいると、私が一人ポツンとなります。そんな時には一人で自転車に乗つて、広々とした所で自然と一体化したフリーリングを起すのですけれども、そんな時に思ひきり声を出して自然に向かつて、宇宙に向かつて「あ

りがとう／＼と叫ぶのです。大変スッキリします。

その他にも先程紙に書いてありました事を自転車に乗りながら「愛とは忍耐強く親切にすることです」と言いながら、「信念とは……」と言いながら走っているんです。大変気持のよいものだと思います。

オーラが見える息子たち

話は変わりますがこれもこれがオーラというのでしょ。うか生態エネルギーでしょう。か、長男と次男は掌ですけれどもオーラを見る事の出来るのがわかりました。長男は二年前に、フツと私が暗い所で「これに何か色が見えるかい」と言いましたらば、「見える」と言うのです。

「どの位見える」と言いましたら、暗い所で私は手の形などはわからないのですけれども、長男は、「ここが何色で、ここが何色で」と、指の形を型取るのです。「では自分のも見てごらん」と言いましたら、やはり自分のも見えるわけです。私の手の色は二年間の間で、ずい分変化したということを長男から聞いておりますし、いろいろな色を聞きますと、確かに昔言っていた色から今の色に変わっております。

これは実際のオーラであるかどうかはわかりませんが、ある時、植木パチを持ち出して暗い所で子どもに見せたのですが、少し見えると言うのです。まあ、あまり、やることを拡大してしまうと混乱

するといけないと思いましたが、植木パチの方はその後やめてしまいました。

次男は二カ月程前から見せましたらばやはり「見える」と言うことを言っておりまして、長男と同じような色あいで見えるようです。

これは子供の頃の、幼児期のエゴの少ない時に宇宙の意識による能力があると信じていましたので、その実証ではないかと思っております。

家庭の事ですけれどもGAPに入会しましてから五年たちますが、結婚して十二年になります。入会後の五年間は大変楽しく過ごせるようになりました。

以前は犬も喰わないケンカも良くしたものです。少なくなった理由としては、私自身が悪くなったのが分かったのです。エゴが多かったのです。私に。

私は亭主関白が主の条件だと思っております。それは家内にも無理を強要していることであつたのです。それに気がきまして、今は時間のある限り家内に協力しております。今は大変家内を尊敬できるようにになりました。

亭主関白は自分自身の進歩の妨げだと思っております。

信念の力で望み通りの仕事に転職

転職の話ですけれども、私は昨年九月に、高校を卒業してから十九年半勤務した会社を自分の信念により退社致しまして、現在は以前の技術と経験を生かして

一人で仕事をしております。この転職の体験によって、今自分が生まれ変わったような気がします。

職業選択の時には、それは義務のようなもので、十分に社会を知らない年代で選びますので、一つの運なのでしょうか。

その会社の中でも自分に与えられる持ち場も希望通りでないこともあります。そんな時でも自分が自覚した時に、自身にマッチする職業を選びたい、と思

うのは当然だと私自身は以前から考えておりました。そのためには会社がイヤだとか仕事がいやだとか、そういうものではなくて、やはり一歩前進したいと願うのが条件であるはずなのです。私もそのつもりでございました。立派な方々は一つの会社の中で自分の持ち場をフルに生かして前進している方々も沢山ございます。

私も独身の時は将来転職するのだ、とそのつもりでこの(以前)会社で沢山の経験をしよう、将来何でも出来るような自分になろうと、その信念は仕事においては大変な進歩がありました。しかしそれはモレーツ人間とは全然違う意味です。

ところが結婚して、また子供が出来る周囲の状況が変わりまして、思い通りにゆかなくなってきました。年齢のことを考えますと、家内は心配して進歩したいと言っても本当の意味は理解してもらえませんのでした。勿論そうです。独立して会社を興すわけでもないからです。

前の会社はどんな職種の会社で、どんな仕事をしていたかを簡単に話したいと思っております。私がおりましたのは建築工事に伴う電気工事会社でありまして、た

とえば、ここは東京文化会館なども同業の会社がやられたものですけれども、ここには大変大きな電気室があります。各部屋に照明をとまず分電盤があります。またこのようにスピーカー等が使えるようなコンセントもあります。電話設備もあります。火災を知らせる火災報知器も

あります。いろいろな電気がかかるものは沢山ありますが、それらの電気設備を建築工事と共に行うのが私の会社の仕事であり、私はそこで現場監督として、会社の代表者として、部下を三人〜四人使

いながら、現場に常駐しておりました。この文化会館でいいますと、よく現場事務所というのがありますが、その中に約一年〜二年、自分の会社の社員共々、図面を書いたり、打合せをしたり、常駐するわけです。職業としては大変中広く奥行きが深く、素晴らしい体験を沢山しました。

この職業を選んだことは私にとっては大変幸運であつたと思っております。

電気工事会社でありまして、工事の体系がどうなつているかと思つたところ、たびたび例に出すこの文化会館の場合、施主と称するオーナーは東京都であるわけです。東京都でこういう建物を建てたい、そうしますと設計事務所を依頼するわけです。設計事務所は設計を依頼されて、また設計図が出来上がった後

ここを实际上施工するのは建築会社であり、冷暖房設備の工事をする会社であり、衛生設備の工事をする会社であり、それから電気工事をする会社、大きく分けま

すと、この四つでそれぞれの会社が協力

して一つのものを造り上げてゆくわけです。

その時に当初設計をした設計事務所は次には設計図書を指針として道しるべとして我々工事会社とする施工が正しくゆかかどうか、またお客様の要望がその時折にマッチしているかどうかチェック管理しながら進めて行くわけです。私が考えておりましたのは、電気工事会社の体験をもとに一步前進して設計事務所に入りたいと思つたわけです。

またなぜかと言いますと、設計図書の中には実際に工事していくことが沢山図示されているのです。これは諸々の事を図面の中に盛り込むのは大変難しいことなのですけれども、設計事務所は設計すること自体が本業ですが、工事していくところを如何に管理するか、これはちょっと不得手なのです。こういうと大変申し訳ないのですけれども。

そこで私は工事業者の苦勞を大変よく知っていますから、経験を生かして設計事務所と工事業者との間で自分なりに考える素晴らしい管理をしたい、と願つたのです。それが私の希望でした。

それからもう一つの理由としては、これは完全にアダムスキー哲学によるものでありGAPに入会後に私の信念となつたものですけれども、現場を一つ責任を持たされるということは、その現場の中が一つの小さな会社と同じわけです。そこには私自身職責上にあるものと習慣によるものとのいろいろな必要悪が目ざわりになってきたわけです。

目ざわりなら全くしなければ良いわけ

すけれども二十年近くも育つて来た習慣細胞ですから一概に取り除くことは出来ません。当然マイノリティのバランスが崩れてきます。この当時が一番辛く苦しく思いました。

その時にいつもアダムスキーの本を持って通勤電車の中でも、家に帰つても何回も読み返したのです。気持ちを落ち着けるためもありまして手話サークルに入つたのも丁度その時だったのです。アダムスキー哲学を単に認めた事が理解できたと誤解したこともちょうどその時気がついたわけです。

その後の時の経過により気持が落ち着いたところでマイノリティを再確認したのです。そうしましたらば進歩するためには転職することであるという信念を持ちました。そういうわけで、その信念に従い知人その他にあたってみたのです。

ところがこういうものはすぐにあるものではありません。面接に行きましても私の希望通りでなく、こちらから断つたものや、このような仕事ですから大変自分の時間を作ることが難しくて、職場を離れられなく面接に行けなかつたことや、面接会場まで行つたのです。けれども私自身がその当時仕事を受け持つておりまして、直ぐに辞められない状況だったので、面接前に面接を辞退して帰つたこともありました。

そうするうちに家内とも相談して、もう年齢のことも考えて今年一杯(昨年一杯)に決まらなければこのまま今の会社を続けよう、そう約束しました。家内に心配をかけられませんでしたので約束

しました。

ところが昨年の六月末のある日突然に思いがけない人から電話があり、すぐ会いたいと言われました。会ってみますと「今どうしているか。その気があるなら来ないか。出来上がった経験のある人を探していたら君の事を思い出したので。ただし社員としては採用していないから個人契約だがどうだろうか。今すぐでもよいし、もしだめなら十月までなら待てる」そういう話でした。大変尊敬する、以前にお世話になつたことのある方からでした。

また運よくちょうど仕事が途切れる時でしたので、この話が一月月早くても一月月遅くても今の私は実現しなかつたと思つております。

二十年近く勤務した会社ですから、辞めたいと言いましてから退職するまでいろいろありまして、個人で仕事をします。普通なら独立とか、そういう理由が主たる名目ですけれども、とにかく円満退社しました。

アダムスキー哲学で自由を教えていただいておりましたので、前が急に明るくなつてきました。

新しい会社での体験も全てが身になることばかりです。以前の会社では地位がありましたのでわがままが通ります。あの種のエゴだと思ひました。そういうものが以前あったことに気が付きました。

そこで現在は初心にかえることができたわけですけれども、昔の新人社員の時のことが思い出されまして、自分が大変素

直なマイノリティになって行くのが分かるんです。転職の話をするときに始めに「生まれ変わったようだ」と言つたのはそのことなのですけれども、思いがけない別の現象が現れて、今現在では大変嬉しく思つております。また、自分自身が反省できるのも大変な進歩だと思つております。

生命力の深遠さに感動!

つい先日生命体の素晴らしいを体験致しました。建築工事に携わつて電気工事を行っている関係上、いろいろな種類の建物に出会います。丁度昨年関係しました建物が生物実験の建物です。動物を飼つておりまして、その動物にいろいろな薬品を与えて、それらがその動物の体内で如何に消化されるか、そういう実験をしながらデータを出す研究所なのです。

ある時にネズミとブタの解剖があり、私はぜひ見せて欲しいとお願ひして見せていただいたのですけれども、生命の科学をアダムスキーの本で学び生命の偉大さを文章で知つておりますけれども、この時体内を切り開いてそれに直面した感動は大変素晴らしいものでした。

一つずつ細胞から成りあがっているものでしょうが、それらが心臓であり、胃であり、腸であり、血液であり、血管であり、何匹解剖しても同じように揃つています。宇宙の意識に従つて動いてるんです。改めてその深遠さには感動致しました。

また生命体に対しては創造主は大変公平に造ったのであらうと思います。たとえばブタで言いますと、頭蓋骨の厚みが前の部分で五センチ位ありましてブタは大変暴れるものですからいつも身体をどこかへぶつけているんです。脳の中を保護する為と思うんですが頭蓋骨が五センチ位あります。大変硬いもので解剖する人達はノコギリで割りを入れてからハンマーで割るのです。

また生命体の深遠さに対しては、ちょうど骨折したブタがおりまして、それが直ったという事で、直った部分を骨だけ取り出して縦に切って見せてくれた訳です。骨折した跡が二割から三割太くなつて生命体の中で自然に骨が補強されているんです。大変素晴らしいものだと思っております。解剖される動物には感謝の気持ちで見ることが出来ました。

その日表に出て目の前を高級車が通つたのですけれど、本当に単なる機械と鉄の塊にしか見えませんでした。

その時です。私はたびたびやるのですけれども近くの林の中に来た時、宇宙に向かって「ありがとう！」と大声で叫んだのです。

スペース・ブラザーズに会う？

私の体験としては以上のようなものですが、また一つ、つい最近の話です。

これは本当にスペースブラザーズかどうか分かりませんが、私がそのように感じた人にお会いしたと言う話をちょっとしたいと思ひます。

一月三十日の金曜日ですけれども、朝九時半頃地下鉄の千代田線でした。二重橋の駅の辺りでフツと前の車輛を見ますと二人の外人(男性)が立っているんです。年令は三十才位かと思われすけれども、背が大変高く、眼が大変美しく光り輝いていたんです。また肌が輝いていました。こういう人を外人のスターにたとえても誰に似ているかと言えようなものでもありません。ただ本当に見とれてしまったんです。想念を送る余裕もありませんでした。夢中で見ておりました。

ところが二人の外人はときどきこちらを見て微笑んでいるのか、その方達の普通の表情なのか私には分かりませんでした。私がその方達に気付いてから二分ぐらい後でしょうか。停車した駅で降りて行くんです。ホームを歩きながらまたこちらを見ましてニコッと笑っておりましたけれども、私は想念を送りませんでした。また送つても私には分からなかつたろうと思ひますけれども、スペースブラザーズでなくても大変印象的な人に会えたと思っております。

長い間、私の話を聞いていただきまして大変ありがとうございました。

大変貴重な時間をいただきましたが、あく話が終わらず、お聞き苦しいことがあったと思ひますが、お許し願ひます。

これでやっと私も人並みになれたのだらうと思っております。

これまでにしていただいたのに、久保田先生はじめGAPのかたがたの英知あ

る真理のお教えのお蔭と思つて居ります。私が皆様とともに、この宇宙の教室とともに学習出来ることを大変な誇りとし

ております。どうもありがとうございました。

ミラクルワードにより 奇跡が発生!

黒田保夫

二月六日夜より八日にかけて私は職場の仲間誘われて、長野県の梅ヶ池スキー場にバスツアーに出かけた。私はスキーを過去に一度しかやった事がなくてすべるより、ころがの方がうまいので、あまり気が進まなかつたが、職場の人達とのつきあいもあるので行く事にした。

出発の二日程前から風邪をひいたらしくて、ノドが赤く腫れて水を飲み込む時でさえ、かなりの痛みを感じた。これでは、せっかく行つても現地でも出して旅館で寝ていなければならぬ羽目になるかも知れないと思つたが、やめるとキャンセル料金を五〇%取られると聞いたので無理をして出かけた。

カゼでノドが痛む

静岡を出発したのが午後十時。梅ヶ池までは途中の交通事情によって定かではないが、十時間以上はかかるという事だ

つた。ヤレヤレこんな狭い車内に押し込められ足が伸ばせない状態で朝までじつとしていなければならぬとは、なきけない事になったものだ。それにこのけむたさときたらどうだろう、不運にも、乗り合わせた四十名程の乗客の殆どが男ばかりで、その九十%位の者達が、口々に白い煙突をくわえてスパスパやっているのだからたまらない。バスの車内は三メートル先がうす黄色にかすんで見えるようである。

思えばなんて地球人は、おかしな習慣を持つているのだらう。乾燥させた木の葉っぱに火をつけて、その煙を胸に吸い込んで、「こりやうまい」などとやっているのだから。血液に酸素を供給するための新鮮な空気をわざわざ金を払つてまで煙で汚してから肺の中に吸い込んでいわけがない。考えてみれば全くバカげたはなしだ。まるで自殺行為ではないか。

しかもそれによって、私のようなタバコを吸わない者までが、おなじように汚れた空気を吸わされるのだからたまったものではない。

聞くところによれば日本でのタバコによる年間の税収入が数百億円にもなるといふ。政府ではその莫大な税収が減ることを恐れてか、タバコによる害を国民に宣伝する事はない。それどころか最近では、有名なプロレスラーを使ってテレビによる新製品の宣伝をやり、拡張にこれとめている始末である。

結局、自らその危険性に気付かない限りタバコはやめられるものではないだろう。愛煙家といわれる人達の舌や肺の細胞は、感受力がマヒして鈍くなっているのだから。

しかし国民の全てがタバコをいっぺんにやめてしまったら大変なことになるだろう。タバコの生産に従事している農家や、専売公社に勤める人は失業することになるし、ライターのメーカーや、タバコの小売店もつぶれるだろう。又我々の税負担が増すことにもなるなど「風が吹けば桶屋が儲かる」の譬えのように複雑に関係し合っている社会のいろいろな面で大混乱が生じることだろう。

ミラクルワードをとる

そうすると、たとえ良くない事から良い事に進化するのも、それがあまり急進的に成されると大変なことになるものだ。健康と医者や薬メーカーとの関係や平和と兵器のメーカーの関係など地球の

社会では、それが良い事で人間の幸福につながるも解つていても、社会の現状を変えるのは非常に難しいものだ。などと独りでブツサ考えながら、伸ばせない膝を抱えて、ノドの痛みに耐えながら出かけて来たのを後悔していた時、フト或る印象が湧いて来た。そうだ、「ミラクルワード」というものをやってみよう。

どうせ窮屈な姿勢で眠れそうもないし、今さら一人でバスを降りて帰れるわけでもない。明朝までたっぷり時間もある。ニューズレターによれば癌でさえも治ると書いてあった。風邪なんてすぐに治るだろう。しかし、難病に侵された体が、まるで針のとんだレコードのように「治る、治る」と短い言葉をバカみたいに繰り返して唱えるだけで治つてしまうなどという事が、本当にできるのだろうか、私の心にはそんな疑惑が浮かんだけれども、まあ、だまされたと思つてやってみよう、別に金も労力も要る訳でもないのだ。そう決心して時計を見たら午前〇時だった。「治る、治る、絶対治る!!」その頭の中で唱え始めた。そうして目的地に着くまでの八時間余り、殆ど一睡もせず唱え続けた。一体、八時間の間に何回「ミラクルワード」を唱える事ができるか、あとで計算してみたら八百回となる。

やがて、夜の闇が白みかけ始め、バスは一面銀世界の梅ヶ池高原へ到着した。バスから降りて狭い車内にすわり通してしびれてしまった手足をグツと伸ばしながらノドの調子はどうかと、ツバを飲み込んでみる。やっぱ痛い、出かける前

より悪くなったようである。

「ほらみる、何んの効果もないじゃないか」。センスマインドが、そうささやいた。心というものは気が短くて、種を蒔いたら、すぐ収穫を得たがるものである。宿に着いて軽い朝食を取った。まだ半分眠っている体を元気づける為に少しビールを飲む事にした。冷たいビールが、熱っぽいノドをうるおし、爽やかな気分にしてくれる。二杯三杯と飲むうちに、疲れが手伝つてか、早くも酔いが回ってきたように体に快いシビレを感じた。

「もう、スキーなんてどうでもいいや、このまま暖い部屋でビールをおおって寝ころんでいる方がどんなによいか知れない」。雪見酒とシヤレ込もうと思つている私をしり目に、連れのみんなは、リフトが動き始めたからもう滑りに行くと言いながらスキウエアに着替えている。なんて日本人の遊びというものは、こうも余裕がなく、すさまじいのだろう。一週のうち五日か六日モーレツに働いて休日ともなれば先を争つて出かける。行楽地は日本全国どこへ行つても車と人の洪水だ。短い休暇を目いっぱい楽しもうとすれば、スケジュールは過密にならざるをえない。そして無理がたたつて遭難や事故に会い、テレビや新聞を賑わすことになる。「狭い日本そんなに急いで何処へ行く」とは、うまい交通標語であるが、「狭い日本急がなければ間に合わない」というのが現実であろう。そして、シーズンが終われば大自然に静けさと共にゴミの山が残される。

私も含めた、たいていの人間は皆とおなじ事をしていないと不安や恐怖を感じるものである。群れから外れて、一人違う事をしたり考えたりする事には本能的な恐怖心を抱く。それは孤独に対する恐れである。自己が属する集団の思想や、行動が正しいか、どうかは問題ではなくただ、その中に居ることで安心していられるのだ。それ故人間の思想や行動が、何事につけ画一的になり易い傾向が生じる。それは「流行」という社会現象に端的に顕れているのを見ることが出来る。ファッションや乗用車のスタイルを例にとつても、機能とは別次元でその外観が周期的に目まぐるしく変わる。直線的から曲線的になったり、長かったり、短くなったり、というふうな歴史の中で意味のない変化を繰り返している。

それというのも一時は何物にも替え難いと思うほど美しい対象を見つけてもいつもそれを眺めていると、やがてなんの感慨も湧かなくなつてしまふ、目という気まぐれで、あきつぱい感覚器官の好き嫌いで、人間がいろいろな振り回され感に同化していかない不安だといふ心理を企業が巧みに利用して、意図的に流行を作り出し、金儲けをしたり、政府や独裁者が大衆をコントロールするにも大変都合の良い原理として歴史の中で利用され続けてきたようにも思える。

そんな事を考察するにつけて、我々の行動の動機となるもの多きが、不安や恐怖からの逃避という理由に基づいている事実に気付くことができる。しかし、殆どの者が自分が恐怖している事さえ気付

いていないばかりか自己の行動の動機などをいちいち考えてもみない。したがって、生活の身近かなところにも先進の科学技術を駆使した製品が入り込んできたり、他の惑星へ宇宙旅行も可能だという高度に技術化された社会に生きているにも拘らず、我々は世間に（我々の心の中に）はびこっているつまらない迷信や古い因習を捨て去り、自由に生きると言うことが非常に困難に思われるのである。

ノドの痛みが治った！

仲間に促がされてしぼしぼ重い腰を上げ、少し熱っぽい体を借り物のスキーウェアにつつま、これも借り物のスキー靴を履き、スキーを肩に担いでみんなの後に従った。ゲレンデに出ると良く晴れた朝日に反射して、見上げる峰々が金色に光り輝いている。目を落とせば白いスロープがひどく眩しい。がそれ以上に色とりどりのウェアにピツタリと身を包んだ若い女性達の姿が大変美しく、ついつい見とれてしまう。スキー場に来るとなぜこんなに女性がきれいに見えるのだろうかなどと考える間もなく、無理やり「初級スキー教室」というのに入らされた。

準備体操が始まって、斜面の登り方や方向変換・直滑降・ボーゲンと、滑ってはころび、ころんでは、またころびというふうに二時間余り集中的にしぼられ、汗をかきながらの大奮闘であったが、気分は爽快だ。腹が空いたので仲間数人と近くのレストランに入り、ビールとカツカレシを取った。ビールを飲みながらカレ

シをペロリとたいらげて、一息ついた時、私は大変な事を忘れていたのを思い出した。本当は、私はノドが痛くて、カレシみたいな刺激の強いものはノドを通らないうきさだたのである。どうした事だろう。かきかたパスを降りた時は、あんなに痛かった。旅館に着いて朝食を食べた時も痛みをこらえつつ飲み込んでいたものをそれが、二〜三時間スキーをやっていた今、昼食を食べ終わるまできれいに忘れてしまっていたのだ。グラスに残った水を少し飲んでみる、かすかに違和感はあるものの、殆んど痛みは、消えていた。なんて事だろう、車中で一睡もやらずに行じた、二万八千八百回の「ミラクルワード」の効果だろうか、そうだとそうに違いない。奇跡が今、私の身に起こったのだ。

かの偉大なるイエス大師が行われたと伝えられている、聖言による数々の治病の奇跡、また、聖女ベルナデットによるワールドの泉の奇跡、それらに匹敵するような奇跡を起こす力が、ただの言葉による、反復の行為の中に秘められているとしたら、まさに、それは「奇跡の言葉」と呼ぶにふさわしいものにちがいない。歓喜と感謝の念で胸がいっぱいになった。しかし、それも、ほんのつかの間、次の瞬間には、小賢しい懷疑心が心を占めた。

確かにノドの痛みは治ったし、体も軽くなったようだ。だが、それが、「ミラクルワード」の効果だと断定するのは、少し早計ではあるまいか。たかが風邪ぐらいの病気だ。ちょうどなおる時期に来

合わせていたのかも知れないし、ビールを飲んで運動し汗をかいたのが、よかつたのかも知れない。一度それらしい効果があったからといって、盲目的に、信じてもしょう。少し思慮に欠けるといえるものであろう。「なんと傲慢で疑いぶかい心よ」と、自らが情けない気もしたが心の思うことも、もっともである。それでは、もっと、いろいろなことにこれを応用・実験して、疑いぶかい心が納得ゆくように、しなければならぬ。もう一回か、二回、自分の望むことが実現したら、全面的に信ずることにしよう。あくる日、スキーを終えて、帰りの車中、今度は何を目標に「ミラクルワード」の実験をやるかと考えあぐねていた。そして、それにうつつつけの或ることを思いついた。

アレルギー症も全治！

私には、もう八年来の持病となつてしまった花粉による忌まわしいアレルギー症がある。毎年きまつて、二月末〜五月にかけて一年中で一番気候がよい時期が皮肉にも杉と松の開花期に当たる。

私の住んでいる所は四方を緑に囲まれた片田舎で、杉や松がたくさんある上に遠州名物のからっ風が毎日のように吹きすさび、そこいら中に花粉をまき散らす

それが目や鼻や気管等の粘膜を刺激し、ヒドイ症状に悩まされる。現代医学では根治の決め手はなく、症状を軽減する薬を与えられるが、薬には副作用がつきものであるし、薬が切れれば、たちまち元

に戻ってしまう。他人から聞いて、よいといわれるあらゆる民間療法を試みたがどれもダメであった。もう一生治らないものと、半ばあきらめて、仕方なく八年間もの間病気がつき合つて来た次第である。これに「ミラクルワード」を応用しないという手はない。もしそれに成功すれば、私自身が、病氣から救われ、「奇跡」に確信がもてるのみならず、毎年増え続けているといわれる同様な病氣に悩む人々に身をもつて知らせる必要があるからである。そう考へて、以来今日（三月二十五日）まで、仕事中でも、遊んでいる時も、トイレに入っている時も「治る、治る」と、やり続けた結果、今年、たまにクシャミが出て少し鼻水が出る程度で、例年のように病院で抗ヒスタミン剤を処方してもらふ必要もなく済んでいる。そして、この願望を実現させるための素晴らしい方法について、疑い深い私の心も、ようやく確信を抱きつつある。一体いかなる原理で言葉の反復によつて、我々の願望が実現するのかと考へても、それが宇宙の絶対的な法則らしいとしか、私には考えられない。

「生命の科学」等で、私が理解したところでは宇宙の全ての形態の現象化に先行する想念があり、それが英知と力により現象界に物質的形態を表現するものだと考へる。これを想念・エネルギー・物質の三者は、各々を等式で結ぶことができ、それらは、同一のものを異なる角度から観察するようなものだと言へるかもしれない。それは想念の力の集中による念写、スプーン曲げからイエス大師の行われた、

水をブドウ酒に変え、パンや魚を、空間から無限に取り出したことなどを私に連想させる。

聖書に示されているイエス大師が行った奇跡は二千年余も昔の人々が科学に無知であった時代故にまたイエス大師という他の進化した惑星から来られた偉大な教師だけに可能であって、我々には想像もゆかない魔術を使つたように思われているが、決してそうではないと信ずる。

「あなた方も私のする業をするであろう。これよりもなお大きな業をするであろう」とイエス大師は言われた。奇跡は我々一般人には無縁のもので、我々の手の届かない、はるか遠いところにあるのではなくて、多分、すぐ手を伸ばせば届く所、と言うより、我々の手の中にあつて、その顕現を待っているのではないだろうか。かの人がやつたように宇宙の法則（真理）を顕現させ得る知恵と、或る条件を満たすことによつて人間なら誰でも可能なのかも知れない。その法則とは信念の法則である。信念が持つている現象化しようとする創造力であり、条件とは信念である。想念やイメージを組み立て、それを保持し、直ちに具現させるには懐疑心など微塵もあつてはならず、強烈な信念が要求される。我々の抱く想念は、その信念の強さの程度に応じて現象化を可能とするのではないだろうか。

カラン種ほどの信念があれば山に「向こうに移れ」と言えば移るだろうとは有名な言葉である。「信念のある人は見えないものを見るし、信じ難いもの信じて、そして不可能な物事を可能にする」

とホワイティング氏は言われた。

我々は、日常大抵つまらない想念を多く抱いて集中力を散らしているのに、想念にそれ程の偉大な力があるとは、なかなか気付かない。したがって我々地球人には、想念を具象化するに足る強い信念を持つ事からして非常に困難になつてい

イエス大師は、病人を癒すのに一度言

信念の力で 蘇生した私

山口 緑

クスコの大寺院へ入る

昨年の八月十七日、旅行団一行は南米ペルーの南部の都市クスコに向け、首都リマを立った。前日はリマのホテルのレストランで自己紹介を交わすためのパーティーが開催されたが、幸いなるかなその日が私の誕生日で旅行会社より記念品を頂き気をよくしていたのである。クスコには昼前にたどりついたが、受けた第一印象はこの都市全体がすべて赤茶色を帯びていたことである。家屋も路地もそこを歩く人々もすべてそうなのだ。

業（想念）を発するだけで事足りたが、

我々地球人には、なかなかそうはいかない。そこで未発達な地球人類の為にスペースマスター方が教えてくれた素晴らしい方法がある。意志の強くない心にも、また疑い深い心にさえも強力な信念を植えつける事のできる、言葉による反復の技術「ミラクルワード（奇跡を起こす言葉）」の実践がそれである。



●クスコの大寺院

ここはリマとちがって空が抜けるように青く、地上の赤茶色と紺碧の空が素晴らしいコントラストを見せている。

クスコは標高三千四百メートルにある高地都市である。日本をたつ前から高山病のことはかなりきつく聞かされていたので、とにかく用心してゆっくり歩いたり、休んだりしたつもりだった。

クスコの街はかつてのインカ帝国の首都であったというが、私には実感としてわいてこない。リマやその後訪れたプノにしてはそうだが、だが、むしろこれらの都市のもつ異様な雰囲気、一日も早く

脱出したいという気持ちがあるが、オルニアに舞い戻るまで続いたのである。これらの土地の放つ異様な臭いや空気、人々のエキゾチックな風景、それらは私にとつて奇妙でこそあれ、親近感なるものはみじんも考えられない。まるで夢の中を徘徊しているような妙な感覚が終始離れないままであった。

さて、クスコでの話を続けよう。半日近くホテルの自室で休息した後、市郊外にある遺跡見学に出発した。市街を抜けてバスで石畳の急傾斜道路を登ってゆく。最初に訪れたのはサクサワマン城塞である。これは圧巻である。巨大な石が三重に無数に積み重ねてある。しかもその石組みの間はカミノソリ一枚として通すこともできないのだ。

その後タンボマチャイやその他の遺跡を見学し、クスコ市内に戻ったのはすでに夕闇せまる黄昏時であった。ここで街の中央にそびえる大寺院を見学することになった。（注・タイトルの下側の写真（参照） この見学は自由であったが私は内部からの「行くな」という印象を無視して、その寺院へ入ってしまったのだ。この意識からのささやきを無視したおかげで、苦痛という代償を負うことになったし、また大いなる生きざレッソンを学ぶことになったのである。

ついにダウン

内部は実にインケンで独特の宗教臭い空気が漂い、とても気持の落ち着ける場所ではない。人々はこんな薄暗いおぼけ

屋敷の、ローソクの無気味に揺れ動く炎を見て、果たして心のやすらぎを本当に得ているのだろうか。

ガイドさんがこの寺院の説明をし続けていたが私は遠く全く耳にひびいてこない。次第に体が重く、気分が悪くなるのを感じはじめた。足どりも重く、「ここで倒れてしまうのではないだろうか」という恐怖感がおし寄せてきた。

「いや絶対大丈夫だ」と自らに言いかけ、もうこの場所から出ようとして私のルームメイトであられた清水さんに「先に出るから」と伝言した。そのとき「気分が悪い、助けてくれ」とノドのところにまで言いかけたが、ここで皆さんに迷惑はかけられないと思ひ皆さんの後に従った。外に出ようとしても出口も見当たらない。

次第にどうにも苦しみがこらえきれなくななり、壁にもたれかかり休もうとしたがどうしようもない。まるでカメラの絞りが徐々に閉じるように眼の前がスーッと暗くなっていた。とうとう意識が薄れ、暗く冷たくなった寺院の一角にうずくまってしまった。遠く深い谷底へ落ちてゆくのがわかった。

野口さんが助けてくれた

「あきらめるな、助けを呼べ」
みんながほとんど去ってしまった後だっ
たらうか。かすかに、しかし力強い声が
内部から聞こえてきた。たしか無意識の
うちにわめき声をあげたような気がする。
「人が倒れたぞ、誰か来てくれ」とい

うかすかな声がきこえ、その直後自分の
身体がどなたかにささえられているのが
わかった。しかしまだ眼は閉じたままで
非常に苦しい。

「胸いっぱい深呼吸をして。何回も」
確かに聞き覚えのある野口さんの声だ。
「野口さんが助けてくれたのだ」苦し
みの中に何とも言えぬ安堵感が満たされ
た。野口さんとうほひとりの方に導かれ
て寺院をようやく脱出したのである。二
百メートルほど歩いたであろうか。よう
やく眼の前の光景が見えてきた。もうあ
たりは暗い。気分も不思議と楽になっ
てきた。生き返ったぞ

恐怖と苦痛とのたたかい

意識は回復したものの足どりはふらつ
く。ようやくバスに乗り込み座席に身を
横たえた。みんなは市街の店に買い物に
出かけてゆき、私ひとりバスの中でじっ
と待つことになった。再びどうしようも
ない苦痛と寒さが全身に襲いかかってき
た。息づかいが荒く吐き気もする。それ
に追い打ちをかけるかのように言い知れ
ぬ程の不気味な恐怖感が押しよせてくる。
「この高山病で今後の旅路はすべてメ
チャクチャになるのではあるまいか」
「この誰ひとりいないバスに強盗が押し
入ってきて私を襲いはしないだろうか。
ここは見知らぬ南米なのだ」

このとき内部からある「声」が聞こえ
てきた。
「大丈夫ですよ。信念を持ちなさい」
「そうだ、「信念」だ、絶対治るとい

う信念だ」

私は全身の細胞にこれを何度か何度も
呼びかけてみた。あたりはすでに真っ暗
で不気味な犬の遠吠えだけが耳に入っ
てくる。それでもあきらめずに強烈な信念
を全身にふり注ぐ。次の瞬間、大いなる
希望のフーリーリングが湧き起こり、アダ
ムスキー氏やスベース・ビーブルの印象
が浮かびあがってきた。「そうだ。きつ
と助かる。私はスペース・ビーブルと一
体なんだ、宇宙の意識と一体なんだ」
そう思念した瞬間、全身の苦痛が柔らぎ
非常に楽になってきた。闇の中に次第に
光が輝き始めてきた。

「親切さ」の偉大な力

一時間ばかり経過しただろうか。みんな
が戻ってきた。私の胸に明るさがポツ
と戻ってきた。来る人来る人がみんな私
に激励の言葉を下さったり、バッグを持
ってくれたり、私の中からをささえて下
さった。感慨無量。とっても嬉しい。こ
れらのすばらしい方々に感謝してもし尽
くせるものではない。こんなときほど人
々の親切さや愛が輝いて有難いものはな
い。今もなおこれらの方々から感謝
したい。

清水氏が私を抱きながら次のよう
に話して下さった。
「あの寺院で山口さんが、「先に出るか
ら」といったとき、ちょっと変だ、とい
う印象を受けたが、そのときの印象に従
わなかったのがとても残念でならない」
清水氏の謙虚さと親切には敬服する

ばかりである。

その晩は自由行動で皆さんは思い思い
に連れ添って食事に出かけていかれた。
私は自室のベッドに横になって回復を待
ったが、もうかなり元気になっていた。
私の具合を心配されて久保田先生が有機
グルタミンウムを大量に届けて下さったし、
安藤氏には日本の懐かしいウメボシを頂
いて回復に拍車をかけてくれた。さらに
赤間さんや柴田さんにはほんのりとした
パンを頂き空腹をしのぐことができたし
田中さんには幾度となく激励を頂いた。
その他多数の方々のご親切をあげればき
りがない。こうして翌日には完全に元気
を取り戻したのである。

信念と親切さは宇宙的 人間への架け橋

このクスコでの体験はとても貴重だっ
た。人の親切は絶対に宇宙的である。困
っているとき、苦しいときに与えられる
親切ほど輝かしく、美しく、有難いもの
はない。他人に対して手を差し伸べるこ
とは万人に与えられた特権である。親切
を促す方も受ける方もそれだけで宇宙の
意識の御子となれるのだろうか。

「信念」。いかなる状況におかれようと、
「自分は絶対大丈夫だ、助かる」と
いう強烈な信念を持つならば、必ずそう
なるのだ。決して挫折することはない。
純粹なる親切と不屈の信念は大宇宙全体
に轟き渡り、宇宙の意識の愛ある波動と
共鳴するがゆえに宇宙的人間への架け橋
となるのではなからうか。

〔書評〕

白川義員写真集

キリストの生涯

(27cm×38cm箱入豪華本)

日本の生んだ世界的な写真家・白川義員氏が数年間イスラエル一帯で撮影したこの写真集は壮絶なもので、全巻まさに驚異と感動の増城である。イエス関係の遺跡を取めたこの素晴らしい映像の館は宇宙の法則探究者にとって大いなる遺産になるだろう。

ドアをはずした飛行機の入口に体をロープで縛った決死的空中撮影により展開するベツレヘム、ナザレ、エルサレムの比類なく美しい風景。奴隸に架かせた壮大な円錐型の山の頂上の「こんな物が残っていたのか」と驚かせるヘロデ王の宮殿の跡。イエスが十二弟子と共に最後の晩餐を行った静謐な部屋。エッセン同胞団クムラン派がイエスと共に生命の法則を探求した荒涼たる住居跡。ゴルゴタの刑場へ引かれるイエスが十字架の重みに耐えかねて三度目に倒れた地点。感傷とロマンチズムを超えて聖書に忠実に従いながらこれらをレンズでとらえた撮影者の驚くべき冷静さと透徹した知性。そして怒濤のごとく湧き起こるイエスへの讃歌。

我々はクリスチャンではないしキリスト教とは一切無関係である。しかしイエスは金星から地球へ転生した偉大な指導者であったという特殊なインフォメーション

ョンをもつ我々は、この驚嘆すべきタイムトンネル(写真集)を通じて一度は二千年前の世界へ逆行する必要がある。なぜならイエスの時代は後世のキリスト教による美化・幻想化とはおよそ縁遠いこの世の現実そのものであることを認識させられるからだ。

ここではくだらない写真芸術論は一切無用である。墮落した写真界に迎合せず、女のヌードなどは全く撮らず、キリスト教徒でもないのにただ聖書が好きだから撮ったという孤高の白川氏の高貴な精神と、かつてヒマラヤを撮影中に何度か死地におちいりながら脱出して「自身の神」を見出し出した氏の不屈の信念との結晶が燦然と輝くのみである。

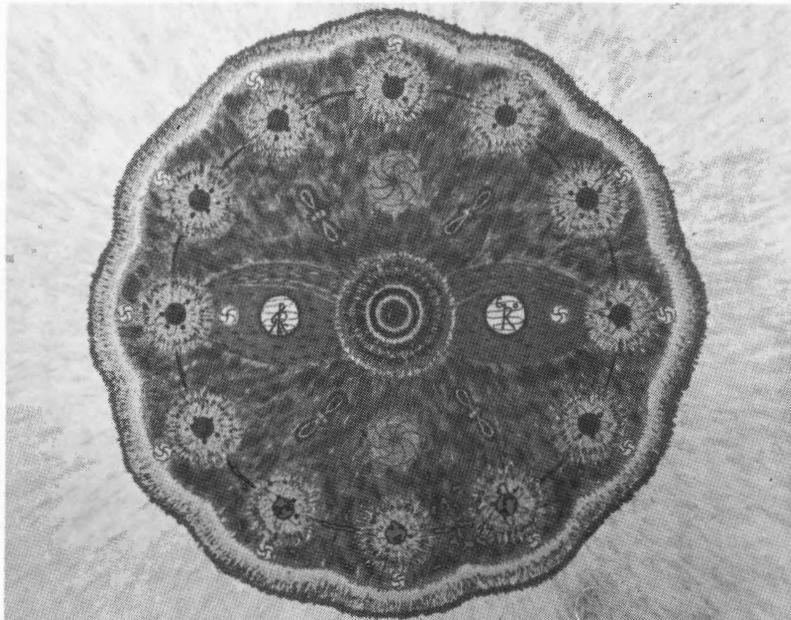
売れないとみた出版界が引き受けなかったために氏の自宅から自費出版されているこの写真集は一般書店にないので、入手希望者は「GAPニューズレターで見た」と記して左記宛現金書留で注文されたい(※日本GAP宛注文しないようにご注意下さい)。

〒108 東京都港区高輪二丁目十二番十五
白川様方 キリストの生涯刊行会
定価 送料共一万二千元

なお白川氏(愛媛県川之江市出身)は「キリストの生涯」「旧約聖書の世界」「新約聖書の世界」の三部作により、全米雑誌写真家協会から日本人で最初の「最高写真家年間賞」を四月に受賞された。他にも受賞が多数ある。

これはフレッド・ステックリング氏によって描かれた鳥宇宙のシンボルである。1鳥宇宙に12個の太陽系があり、1太陽系に12の惑星がある。中心部にあるのは太陽ではなく高度に磁化された物質である。あらゆる太陽系はこの中心物の周囲で軌道を回っている。物体の運動は8の字型をなしている。万物を支えている磁気の欠乏のために1太陽系が弱まると、その古くなった太陽系の物質は中心部へ引き寄せられてふたたび磁化される。こうして失われる物は何もなく、新しい惑星や太陽系がこの永遠に続くプロセスによって誕生する。1太陽系の1公転は約3万年である。(氏の解説より)

〈この絵はステックリング氏宅の居間に掛けてあったもので、本年3月に編者(久保田八郎)に贈られたもの〉



鳥宇宙

フレッド
テックリング
画

質疑応答

宇宙と人間の真相(3)

担当 米GAP本部 フレッド・ステックリンケ

〈文中、単語の下に「S」がつけてあるのは複数を意味する〉

問12 我々の太陽系は崩壊期にあるといわれれています。そこで他の惑星Sの住民は別な太陽系へ移動中だと聞いていますが、地球の多くの人々もこの太陽系へつれて行かれていますのですか？

答 私は一九六五年にこの問題でアダムスキー氏に尋ねてみました。すると氏はスペースビープルは我々の太陽系と別な惑星Sに関して集中的な調査をやっていると話してくれました。特にこの地球ではスペースビープルが、どの太陽系が崩壊の過程にあるかを発見しようとしたのです。

氏の話では、鳥宇宙が太陽系Sを条件づけたので、ある一つの太陽系が出現すると、太陽系群のどれか一つが消滅しなければならぬというわけです。これは自然のバランスです。スペースビープルは、ある太陽系がすでに創造されて存在し、冷却する期間中に、いつかそこへ居住しようときめらるんです。すると一つの太陽系は消滅しなければなりません。それが私たちの太陽系なのです。なぜなら私たちの太陽系は鳥宇宙の中で最も古いものであるからです。

それでアダムスキー氏によりますと、スペースビープルはこの新しい太陽系のいくつかの惑星の植民化をすでに実施しているということなんです。彼らは各自の惑星から志願者をつれて行きましたし、地

球からも人々をつれて行ってこの惑星Sに住まわせています。

こうした人たちはいまのところ先駆者にすぎません。人数が非常に少ないのです。安全に言えることは、私たちの太陽系内の住民の九十五パーセントがそれ以上は、まだ各惑星に住んでいます。一方現在の植民化はきわめて小規模なもので未来の居住用の基地建設を目的としているにすぎません。

私もこの仕事の志願者をしています。私がかつてアダムスキー氏に話して、私をこの地球からつれ去って、「新しい地球」、「新しい文明」の一員となるように別な太陽系へつれて行ってくれと頼んだことがあります。そこで氏が答えるには、「それはだめだ。なぜなら君の宿命はこの地球でまだ達成されていないからだ」ということで、だれしも自己の宿命を地球で果たさない限り、スペースビープルは地球からつれて行かないのだと言っていました。

もしスペースビープルが地球から宿命を達成しない人々を移動させたとしても、彼らはふたたび地球で生まれることにならぬので、これではつれて行った目的を果たせないというわけです。したがって別な太陽系へつれて行ってもらいたいという人がいても、私には頼まないように行て下さい。私自身も行きかけたのに行

けないのですから——。私にはまだ地球でやらねばならない仕事があるのです。

問13 イエスは金星から地球へ転生して(生まれ変わって)来たそうですが、ブツダはどうですか。やはり別な惑星から転生して来たのですか。

答 宇宙の原理を教えるために出現してきた偉大な指導者のすべては、地球から出たものではありません。なぜならこの惑星地球は宇宙的な指導者を作り出していないからです。つまり地球人は宇宙的な生き方を全然やっていないからです。地球人はいつも利己的な生き方をしてきました。

そこで安全に言えるのは、ブツダばかりかイエス、孔子、その他多くの偉人たちは高度な惑星Sから指導するために地球へ転生して来たのです。ここで誤解してはいけません。地球では多くの異なる奉仕の方法がありますので、多くの偉大な指導者が地球へ来て、すべて地球人に宇宙哲学を教えたというわけではありません。たとえばイエス、ブツダ、アダムスキー氏や他の偉人などは宇宙哲学を教えるために地球へ転生してきたのですが、他の偉人のなかには科学や医学を向上させるために来たのがいますし、他の偉人で美しい音楽を作るために来たものもいます。というのは音楽は一種の万国共通語ですから、これにより国々を密接にしようというわけです。

したがって地球には別な惑星から転生して来て地球を向上させようとした非常に多くの宇宙的指導者や多くの科学者、音楽家などがいました。

問14 テレパシーの能力を開発するのに最も重要なステップは何ですか。

答 まず第一に、最も重要なステップは、「私」とは万物を通じて働いている父または宇宙の英知そのものであるということとを認識することにあります。これはいわゆる心の謙虚さ、または自分の心よりも偉大な力が宇宙にあるという精神的な態度と認識です。以上が第一ステップです。

第二のステップは心の調整です。このことは以前、転生と記憶について質問が出たときにお話ししましたが、これと同じステップをテレパシー能力の開発におすすめてきます。

これは先にもテレビ受像機にたとえて話しましたが、心を調整した上で、それを(心)私たちの良き召使いにさせるのです。なぜならテレパシーは私たちの魂(意識)からの印象にほかならないものでそれは心に送られてくるからです。魂は私たちの正体、過去世からの記憶などを私たちに伝えようとするのですが、私たちはそれに注意を払おうとはしません。心も英知ある印象を受けるのですが、それに気づくような訓練を受けていないために注意を払おうとはしないのです。

心を訓練するには、再度申し上げますと、アダムスキー氏のテレパシーの書物を応用する必要があります。ここで誤解しないで下さい。私はアダムスキー氏の本の宣伝をやっているのではなく、その内容の簡潔さゆえに学習には最高だという理由でおすすめるのです。テレパシーについて書かれた本はずいぶん沢山ありま

すが、その作用について本当に理解している人はごくわずかです。私はアダムスキー氏ほど完全に本物で理解しやすいテレパシーの本を書いた人を他に知りません。ですから他のテレパシーの本はやめてアダムスキー氏の本を研究されればはるかによき成果があるものと思えます。とにかく心の調整と心をリラックスさせる能力を高めることです。

さて、テレパシーにおいては人間は送信者にも受信者にもなります。すぐれた送信者は多いのですが、すぐれた受信者はまれです。これは想念を作って送り出すほうが容易であるからで、送信にはある程度の出力を要しますが、その出力は人間の内部に沢山あります。

一方、受信者になるのはむづかしいのですが、これは他人から想念が送られて来るときに受信者はネガティブになる必要があるので、しかもその想念を正しく解釈することができなければなりません。

想念を送るには、送信者の心の中に相手のイメージを描くことが必要です。言い換えれば、送信者がどこへ想念を送るにせよ相手の顔かたちを知っていないてはなりません。相手の顔や人物を知らないうちで一人から他人へメンタル・テレパシーを送信することは不可能なものです。相手の名前をさほど重要ではありません。重要なのは送信者の心の中に相手のイメージを描く能力です。次にイメージ言語として形成される想念を放つのです。たとえばあなたが山中湖で釣りをやり

ながら休暇をすごしたという想念を一友人に送りたいとすれば、まず最初に自分の心の中に友人のイメージ（顔かたち）を鮮明になるまではつきりと描きます。次に樹木の生い茂った山のイメージを送信します。「山へ行つたんだ」という言葉だけの送信ではだめです。それから今度は湖のイメージを送信します。次にボートの中であなたが釣竿を持って座りながら魚を釣り上げている光景を送信します。

いずれの場合でもあなたは各イメージを心の中で非常に鮮明に描くことが必要です。釣り竿、魚、水など。これらのイメージが送信される時、相手の友人がその瞬間に平静で、個人的な意見を持たない状態にあれば、相手はあなたの想念を受信するでしょう。相手はそれらの想念がだれから来るかわかるでしょうし、山、湖、釣りをしてるあなたのイメージを受信するでしょう。そして後

に語るでしょう。

「きみが休暇で何をやったかをよくは確実に知つてらるう。きみは山中湖へ釣りに行つたんだらう」

きわめて重要なのはあらゆる場面のイメージを描くことで、それを想念として放射する能力です。言葉というものは国によって異なりますから意味をなしません。したがって言語、数、日付、時間などは実際はさほどの意味をなさず、むしろ物体や光景のイメージ（心の中に描く映像）が、想念の放射のキイになるのです。しかし以上述べたのは送信の場合にすぎません。

受信の場合にはもつとむづかしいのです。というわけは受信者になるには心をニュートラル（中立）の状態に保つ必要があるからです。言い換えれば、受信者は大抵の場合、なるべく個人的意見を心の中に持たないようにするのです。いつもだれかがあなたに想念を送り、あなたはそれが受信できるという可能性を生じさせておくのです。

これは電話で呼び出されるのと同じことです。電話ではだれしも一時に一人の人間にしか話ができません。あなたに電話がかかってきた場合、電話で相手の友人に話をしようとするわけですが、あなたと一緒にテールブルのそばに座っている他の数名の友人たちにも同時に話しかけるとすれば、あなたはだれとも筋道の通つた話はずきません。だれと話したいのかをはつきりと決める必要があります。テレパシーを正しく用いるには、感受する想念に対して徹底的に注意を払う必要があるのです。

おすすめしたいのは次のとおりです。まず最も親しい人とテレパシーの練習を試みてごらんなさい。たとえば、母親と子供は良い相手同士になるでしょうし、夫婦も同様です。互いに非常に親しい人は相手のフィーリングを知っていますから、テレパシー通信の良きチャンスを持つことになりました。このようにして少しずつ上達してゆきますと、他の人々ともテレパシー通信がうまくゆくようになります。

このテレパシーの原理はいつも働いています。地球上ばかりでなく、地球から

別な太陽系または宇宙全体に、瞬時に、しかも非常に正確に働きます。他のいかなる伝達手段よりもまさるものです。地球人はこれについて他の惑星の人々のように教育と訓練を受けていないというだけです。

問15 日本にはご存知のように自衛隊があります。諸外国の軍隊に比較するとさほど強力ではありません。あなたは日本がもつと強力な陸上、海上、航空の自衛軍を持つべきだとお考えですか。諸外国の軍隊は核兵器を持ってはいますが、これは核兵器がこの混乱した世界で一種のバランスの役割を果たしているからですか。あなたは、日本が核兵器を使用しないとしても、それを持つべきだとお考えですか。（注）質問者は決して軍国主義者ではない。念のため）

答 これははずいぶんむづかしい質問だと思いますが（ステックリング氏は微笑しながら頭を左右に振る）、まず次のようにお話ししましょう。

私は核兵器には反対です。そして核兵器はあまりに危険で扱いにくいのですから各国が核兵器を持つのが正しいことだとは思いません。地球には多くの知識人がいますが、こんな兵器を扱えるほどの知恵を持った人はほとんどいません。核兵器によって戦争を抑止させようとするのは各国にとって大変危険です。核兵器は生活を平和なものにしていません。むしろ生活を複雑にしているのです。

私は日本がもつと強力な軍隊を必要としていないとは思いません。なぜなら日本は非常に小さな国で、生きるために他国

の経済に大きく頼っているからです。日本は自立ができない国です。外国の軍隊は日本を護らないうし、核兵器も日本を護らないでしょう。日本は小さすぎるのです。日本は交戦時に自立できるほどの充分な資源や農業の生産力を持ちません。現在、日本は、アメリカに大きく頼っており、アメリカが日本を防衛してくれることを望んでいると思います。

アメリカが日本を防衛し、日本に経済的な関心を持つとすると限り、日本がアメリカに防衛されることを私は疑いません。私が確実に感じるのは、地球には絶対的な安全保障はないので、こうしたことを心配するべきではないということです。私たちは、ほとんどの人間が気が狂っているような惑星に住んでいるのですから、だれしも完べきな安全は得られないのです。私たちは多くの指導者がかかえていますけれども、彼らは国家や世界を指導する知恵に欠けています。

そこで私たちにやれる唯一の事は、人間として能力をフルに生かして生きることであり、親切に友好的に寛大に振舞うことであり、一個人としての自己の未来のために良き道を作ることであり、私たちの指導者や国家が何をやろうと心配しないことにあります。現在の世界はひどく不健康に見えるからです。私たちは世界中に政治経済の諸問題をかかえています。どこへ行けば一個人が安全であるかはわかりません。私は個人的にアメリカが安全であるとは感じませんし、ヨーロッパの人々も安全を感じていませんし、たぶんソ連の国民も安全だとは思って

ないでしょう。恐怖の雲が地球上の人間の生活の一部になっていきますから、あらゆる人間はその影響を受けています。以上が、この政治問題に関して私が言えることです。

問16 空飛ぶ円盤はどのようにして作動するのですか。詳細に話して下さいませんか。

答 そうですね。アダムスキーの最後の書物「さらば、空飛ぶ円盤」(編注Ⅱ)の書は「空飛ぶ円盤の真相」と題して日本語版が出ていたが絶版になったので、本号より改訳の連載を開始したので、アダムスキー氏は円盤の作動法についてかなり詳細に解説をしています(編注Ⅱ同書第五章「宇宙船と重力」に、きわめて重要な示唆が含まれている)

私は科学者ではありません。円盤がどのようにして作動するかについては限られた知識しか持ち合わせていません。ただお話しできるのは、円盤は磁気的に推進されるということと、電磁氣的なまたは静電気的力Sを応用するということです。

こうした力Sは自然の力Sです。つまりそれらは惑星によって生み出される自由エネルギーであり、宇宙空間で生み出される電磁氣的な力Sでもあって、これは一惑星から別な惑星へ、太陽系から別な太陽系へ及び力です。

別な惑星の宇宙船はこうした磁力を吸収し、磁力線または磁力によって進行するように建造されています。そうすることによって宇宙船は光速を超えることもできるのです。船体は保護用のフォース

フィールドすなわち人工的な大気圏で取り巻かれています。これは小型機が惑星の大気圏内に入ったときに空気との摩擦を防ぐことにより、これにより宇宙船は高度なスピードで飛べるわけです。

大気圏外ではこの人工的なフォースフィールドは大母船の船体の摩擦を防ぐ目的を果たします。宇宙空間はかつて人間の想像したような真空ではなく、宇宙の微粒子やチリで満ちていますので、時速数百万マイルともなれば、このような微粒子が船体のくぼみに突きあたって破壊しますから、フォースフィールドで船体を包んで保護する必要があります。

私たちの地球とよく似て、別な惑星の宇宙船は時速約十キロメートルのスピードで太陽系内を進行し、同時にフォースフィールドも持ち運んでいるわけです。地球のフォースフィールドを私たちは大気圏と呼んでいます。これで地球の流星、宇宙ジン、宇宙線Sからの直撃を防いでいます。したがって、宇宙船は実際には小さな惑星ともいうべきものです。

私にわかっているところは、大母船の内部の各室のあいだにはニュートラル空間があり、また陽の空間と、機械類を収容している陰の空間があります。また大母船内には大きな温室があります。巨大な母船になると長さ数マイルにも及び大温室があり、ここで植物を栽培して長年月にわたる大宇宙旅行に出かける人々の食物を作りますが、更に船体内の生態学的な環境作りもやるわけです。

言い換えれば、惑星は酸素を生み出しますが、これは人間に必要なものです。

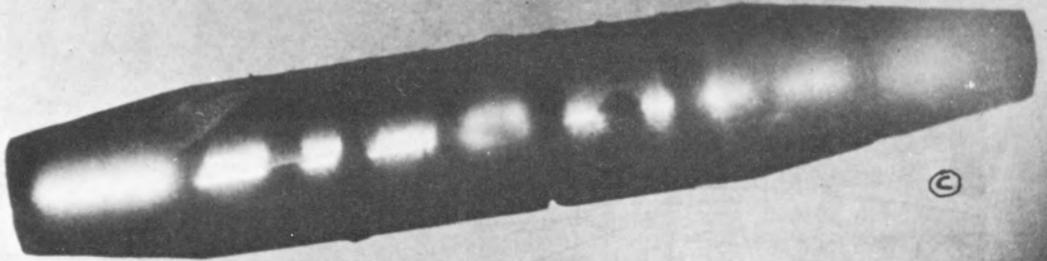
したがって宇宙船内にもガスS、湿度などの交換が行われます。宇宙船はすでに生態学的に独立した一単位の物体になっており、長期間宇宙旅行が可能です。船体の大きさにより乗る人数はまちまちですが、多くの人に快適な生活空間を与えているのです。

地球のある国Sは一九六五年以来、小型円盤型の宇宙船の製作に成功しています。アダムスキー氏によりますと、ソ連ばかりでなくアメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダなどが空飛ぶ円盤の製作に成功したということで、金星のスカウトシップによく似ており、大気中を飛ぶことができるということです。

ただし私はそれらの「円盤」がどこまで飛べるのか、大気圏外へ飛び出せるのか、別な惑星の本物の円盤ほどにスピードが出せるのかは知りません。しかしともかく地球の科学者は似たような物を作ったのです。それらはいずれも超極秘にされており、安全に秘匿されています。これらは実験の目的で使用されているにすぎません。したがって地球の文明はこんな宇宙船の建造法を知らないというわけではないのです。すでにわかっているんです。ただ問題は現在の地球の経済状況下でどのようにしてその宇宙船を用いることができるかという点です。一夜で乗物を変えることは極度に困難なことです。だからこそ宇宙船の開発も極秘にされているのです。

(以下次号)

さらば空飛ぶ円盤



ジョージ・アダムスキー／久保田八郎訳

●米GAP本部より翻訳出版権取得済

この記事はジョージ・アダムスキーが一九六一年に出した円盤関係最後の文献である。日本語版としては編者訳により「空飛ぶ円盤の真相」と題して高文社より発行されていたが、すでに絶版になって久しく、多数の新規会員の方々は、本書に含まれる重要なインフォメーションをご存知ないと思われるので、あらため

て改訳決定版として連載することにした。特に第三章の「宇宙船と重力」は円盤の推進法に関して重大な解説と示唆を与えらるもので、これがあらためて科学者の注目するところとなれば幸いである。
なお連載完了後は全篇を一本にまとめた単行本を刊行の予定である。

なぜ彼らは来たのか 第1章

アメリカが月に最初のレーダー電波を発射したのは一九四六年十月であったが、これは実験を目的としたものであった。月の中心部が目標にされたけれども、これは科学者が地球と月のあいだの正確な距離を計算できると考えたからである。この意図は、レーダー信号が大気圏外をつらぬく莫大な距離を進行して返ってくるのに要する時間を知ることであった。

この離れ業と業績については当時かなり広く伝えられたけれども、大衆が知らされた限りでは、この問題はそれきりで消えてしまった。しかし実際にはこの事件はわれわれの宇宙に対する進出の始まりにすぎなかったのである。

このことは世界の他の場所よりもアメリカの上空で最初により多くの宇宙船が観測された理由を説明する。そして、地球の宇宙船が他の惑星に到着するときも同じことだろうが、彼らの宇宙船のなかには安全かまたは必要な場所へあちこちと着陸したのもあった。これらの宇宙船は地球の地勢や大気に不慣れであったり（我々はその頃までには原爆の実験をやっていたし、少し以前には戦争を終わらせるために数発を爆発させて、そのために異常な状態を起こしていた）、あるいは地球の磁場の強さをよく知らなかった

結果になったという。この異常な電波は遭難信号だと誤解されたのである。ただちに彼らは自身の信号で応答したけれども回答が得られなかったため、調査のために宇宙船（円盤や母船群）を派遣した。当然のことながらこれらの宇宙船群はもと地球で電波が発射された場所へ来たのである。

ために、我々が気づいている以上に多くの宇宙船の墜落事故があったのである。フランク・スカリーは一九五〇年に彼の著書「空飛ぶ円盤の背後」でこの事故のいくつかを報告している。もしだれかが着陸した宇宙船の付近に偶然いた場合は、乗員たちは当然その人に会って話そうとしたし、これがうまくいった場合は、彼らが大笑して地球へ引き寄せられた理由を説明した。

地球の宇宙旅行者もきつと同じことをやるだろう。それは全く当然のことなのだ。

—自称コンタクティ（訳注：別な惑星から来た人間と接触したと称する人）が真実を語っているかそれともウソをついているかを私が見抜けるようになったのは以上の情報のおかげである。なぜならこの種の実験の体験を持つ人ならば、宇宙船から出て来た人々と会見したという話のなかで前述の宇宙船飛来の理由を述べるにちがいないからだ。私はこれまでにこの事実を洩らさなかった。このことはイカサマ師の物語に対する根拠として役立つかもしれないからだ。しかしいま私は真偽証明の方法を知らされてるので、以前は解答のできなかった多くの質問に答えるために、現時点ではこの知識を洩してもよいとブラザーズ（注：友好的な異星人）が言ってくれたのである。

一九四六年にアメリカの電波信号が月から地球へ返つてまもなく、科学者たちは得体的に知れない奇妙なコード信号をとらえ始めた。従来の科学上の説では、多

くの理由からみて人間の生存は不可能だといわれていたにもかかわらず、時間の計算からしてこれらの信号が近くの惑星群から来ていることがわかった。また別な信号が宇宙空間から来ているように思われたが、これは別な惑星の宇宙船を考慮に入れない限り、なんとも説明のつかない信じられない事態であった。

これらの信号は数カ月間続いたばかりでなく現在も受信されているのである。科学者たちはこれを解読しようとして懸命に研究したが、初めは成功しなかった。数年続いた研究の成果は当然のことながら一般大衆には隠されてきた。それにもかかわらず、いまアメリカではウェストバージニア州のグリーンバンク電波天文台でオズマ計画が実施されている。イギリスは巨大なジョドレルバンク電波望遠鏡を持っているし、オーストラリアは多くの電波望遠鏡とともにミルズクロス電波望遠鏡をそなえているし、現在は一九六一年四月に完成予定の直径六十三メートルの円形電波望遠鏡を建設中である。これは南半球で最大のものとなるだろうが、世界中にはまだ多くの電波望遠鏡があることだろうし、すべて精密に調整されて宇宙から来る電波を受信しており、科学者たちはこれを解読しようとして努力していると思う。

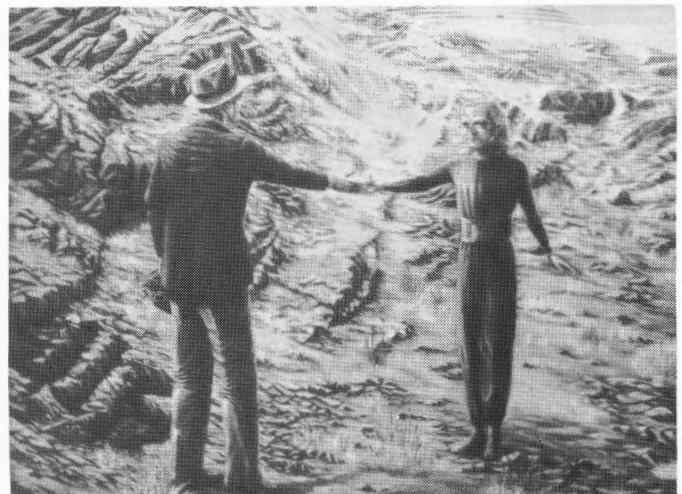
聖書は宇宙船の来訪に関する数百の報告を含んでいるが、そのすべては近年まで誤って解釈され、誤解されていた。これは聖書中の記録に関するさまざまな個人的な解釈や教えに加えて、多くの翻訳がなされたためである。今日では、地球

とその住民の歴史は聖書中に述べてある歴史が始まった頃と同じほどに古いことを多くの研究家は認めている。地球と近隣の惑星群との惑星間コミュニケーションが正常であったのはその時代より以前であった。地球の初期の歴史のほとんどが失われてしまい、

以来、地球人の教育においてはこの種の出来事の可能性を認めなくなってしまうた。しかし地球人が理解しようとするまいと、別な惑星からの宇宙船は何世紀ものあいだときどき地球の大気圏を通して飛んでいたのである。これら宇宙船の多くの目撃は何世紀ものあいだ科学者や路上の人などによって報告されてきた。しかしそれでも地球人は未知の物に対する恐怖やある種の魔法に関する考え方から完全に脱して生長することができなかったのだ、こうした目撃報告は大抵の場合ファイルの中にとじ込められてしまい、このような体験をした人たちが嘲笑と迫害を恐れたために、忘れられてしまったのである。

イギリス、ロンドンのデスモンド・レスリーは長い年月をかけ、たゆまぬ努力

●会員・池田雅行氏（大阪）作のアダムスキーと金星人オーソンとのコンタクトの図。この素晴らしい絵画はアメリカGAP本部へ贈られた（原画は横80cm）。



を続けて、こうした記録類を多く集めたが、その努力の結果は一九五三年に「空飛ぶ円盤は着陸した」と題する著書の中に載せられており、この書には金星から来た人と会ったという私の報告も含まれている。

過去数百年間に行われたのだが、宇宙船からこの地上へ降りて来ることは、一年のうち一〜二度遠い辺りな島を訪ねて原住民に必要な品を供給したり彼らの生産品を積み込んで来る定期船にたとえてよいだろう。ときには異星人のなかには地球へとどまって地球人やその生活様式など

をよく知るようになるうとするのがあるかもしれない。実際にそのうちの何パーセントかはそうしたがつて地球に滞在しているし、一定期間の後に故郷の惑星へ帰ったものもある。こんなふうにして近隣の惑星群の人々は地球上のさまざまな状態と接触を保つことができたのである。この習慣は今日も続いていて、多くの政府もこの惑星間訪問者の正体に関する記録を持っているのである。

一九四六年にアメリカの電波信号が初めてキャッチされて彼らの宇宙船群が調査の指令を受けたとき、地球の大気圏内を飛びまわる宇宙船の数が次第に増加してきた。そして続く十二年間にこの増加は絶えることはなく、世界の各国でも目撃報告が出てきた。アメリカ、イギリス、ソ連、ブラジル、ニュージーランド、オーストラリアやその他多くの国で、あの捕えがたい物体がレーダーのスクリーンにキャッチされたり、ときには各国の首都、研究機関、テスト基地などの上空を、まるで綿密に調査するかのようにミサイルを追いかけたり、ときには飛行機や船に接近して飛んだりするのが目撃されるので、官憲の公式記録は実際に各国のファイルに保管されているのである。

大勢の人々による同時目撃、または個人だけの単独目撃、あるいはときとして数百名の目撃者の眼前で発生した事件などを述べた書物が多数書かれてきたが、そのなかに一九五四年、スペイン、ビルバオで起こった事件もある。このとき円盤の編隊がゆっくりと飛来し、群集の頭上を超低空でかすめたので、編隊は双眼

鏡なしに容易に見られたのである。新聞の報道によれば、この事件で市民たちの一部はひざまずいたという。

ローマでも頭上を通過する宇宙船の編隊の飛来があり、これは町の人々によって観察された。このときこの宇宙船群は偵察飛行中のソ連の飛行中隊と誤認されたが、くわしいことをよく知っていた人たちがいて、後にこの事件の真相が発表されたのである。

一九五二年にはメキシコで夜の暗闇の中を旅客列車が一時間以上も一機の円盤によってつきまとわれたことがあった。ときどきこの円盤は列車の上空に來たり先に行つて長く待たたりした。この空艇から放たれる光はきわめて強烈だったので、乗客は互いに相手を見ることのできたし、まるで白昼のように文字を読むこともできた。そして列車に乗っていた全乗客、乗員、技術者たちからこの事件の証言がとられた。この証言類は文書化され確認されて、この記録はメキシコの所管官庁に保管されていると私は聞いている。

数年前、イギリスのエクササイズ・アーデントという大演習のさなかに、イギリス空軍の頭上をイングランドからオランダへ向かって飛んだ十機の宇宙船の映像をレーダー基地がとらえた。報告によれば、そのスピードは時速三万キロメートル以上と測定されたという。船隊はレーダーのスクリーンから突然消えてしまった。

オーストラリアからは一九五九年の後半から一九六〇年の前半にわたってギル

神父に関する詳細な報告が世界に流れた。多くの教区民と同僚の一牧師と一緒にこの神父がニューギニアの小さな町で、一機の大きな宇宙船が彼らから遠くない空中に停止しているのを目撃したのである。そのとき宇宙船上では修理が行われていた。これはかなり長いあいだ続いたが、数日後にまた繰り返された。ギル神父はこの事件について講演をしながらオーストラリア中を旅行した。彼はまた自分の体験の話をできるだけ多くの人に伝えるためにラジオやテレビで放送もしている。

一九五九年の夏にカナダで航空ショーが開かれて、数千の人が押しよせた。するとそのショーのまっ最中にソ連の大型ジェット機がやつて来た。ところがジェット機が着陸したときその後方のすぐ上空に一機の巨大な宇宙船が停止していたのである。現場にいてそれを見た数名の人から私にもたらされた報告によると、その葉巻型大宇宙船の両横には一列に並んだ丸窓が開かれていて、船内から人々が地上の群集を見おろしていたという。

地上の群集も見おろしていたという。船内の人々はその外見から判断すると男、女、子供たちであり、地球人と同じように皮膚の色もさまざまだったと私は聞いた。丸窓のところを外を眺めた人達が他の人に場所をゆずるときには顔に変化が起こった。子供たちのなかにはずいぶん小さく見えたものもあるが、それらが外を見るには体を持ち上げてもらう必要があったらしい。我々が子供にそうすると同じである。

その目撃の体験を私に語るために数百

マイルをドライブして来た情報提供者たちにむかって、当然のことながら私は尋ねた。ソ連のジェット機と宇宙船が飛んで来て停止したとき、なぜ両方の写真を撮らなかつたのかと。報告によると、その宇宙船は数分間空中に停止したが、そのあと鼻先を上方に向けてものすごいスピードで視界から消え去つたという。相手は答えた。もちろんカメラを持っていた数百の人が写真を撮つたけれども、宇宙船が飛び去つたあと、カナダ陸軍がやつて来て、すべてのカメラからフィルムを没収してしまつた。

私が後に聞いたところでは、当時この事件の報告は新聞社に打電されたが、破棄せよという指令とともに掲載禁止処分になつたという。

この数年間、ブラジルでも目撃事件や宇宙の訪問者との個人的コンタクトが発生している。このなかにはブラジルの新聞によって報道されたものもあるが、ほとんどは世に知られずに埋もれてしまった。それで私が聞いたところでは、ブラジルは大気圏外の訪問者が実在することを他国に認めさせて、この問題に関する他国の「秘密の」ファイルの世界の人々に公開せよと努力しており、また、全世界が異星人から多くを学んで異星人の知識やその存在から利益を得られるようにするため、この宇宙の隣人たちとむと友好的にならうとしているということである。

これはよく知られている事実だが、世界の各国政府筋は地球の大気圏内を飛んでいる宇宙船の実在を認めることを頑固

に拒んでいられるけれども、彼らはUFO（未確認飛行物体）の存在は知っているのである。その理由は彼ら自身が最もよく知っていることだ。ときとして彼らはこんな物は存在しないという釈明または説明に躍起になるが、これは宇宙船が出現してから数時間、数日、または数週間もたつてから調査して所在をつきとめようとする彼ら自身の無能ぶりによるのである。しかしこれは明らかに大衆をなだめようとしているにすぎない。大衆は政府のファイルに含まれている真相をはるかに喜ぶだろう。この真相というのは確認された記録や写真類から成っていて、その写真の多くは政府職員や飛行機の乗員によって撮影されたものである。

数世紀を通じて、別な惑星から来た宇宙船の乗員たちは地球の土、植物、水などを分析用に採取してきた。このようにして彼らは地球の表面や鉱物などに起こる変化を知り続けることができた。そして私が「宇宙船の内部（日本語版『宇宙からの訪問者』第二部）」の中で述べたように、彼らは地球の大気の標本もたびたび採取しているのだが、特に科学者が原爆の実験を続けたからなおさら採取されたのである。今は彼らの研究もこの数千年間よりもっと詳細になってきているが、これは彼らが我々やこの地球に積極的に関心を持つようになり、より多くの宇宙船が地球へやって来るようになったためである。彼らはこの地球が自然の周期的な変化をこうむりつつあることを知っている。この変化は地球だけでなく大気圏外にその影響をおよぼすだろう。そ

して彼らの惑星群も順番にいろいろな程度の影響をこうむるのである。

地球製の宇宙船が月や近隣の惑星群へ到達したときには、乗員たちは科学分析や地球のものとの比較研究用に、その土や植物や水などの標本をきつと持ち帰るだろう。

科学者によってもはや否定されたり疑われたりするとは思えないほどの数で大気圏内を飛行するこの宇宙船なるものももし存在しなかつたならば、そして個人的に、または研究者の心がインスピレーションを求めて開放的になつたときに心の印象によって地球各国の科学者に与えられた援助がもしなかつたならば、地球の宇宙計画は現在のように発達していなかったことだろう。宇宙から来た友はその知識のすべてを地球人に与えることはできなかつたけれども、彼らは地球人が受け入れることのできる限りをわかち与えてくれた。自然のすべてがそうであるように生長と進化は緩慢なのである。したがって我々は自然の力をうまく動力に利用してそれを有利に応用できるようになる前に、我々が用いているその種々の力について理解するように成長しなければならぬ。地球の科学者はまさにこのことをなしつつあるのだ。そして数年以内には地球人も自製の宇宙船に乗って隣人たちの惑星間旅行に加わるようになるだろう。ただし地球人が賢明になり、地球の表面から人類を絶滅させるような戦争をやめるならばだ。

地球の科学者と全く同じように、他の惑星群の隣人たちも進化の段階を通り抜

ける必要があつたが、ただし彼らは地球人が戦争と破壊の歴史を通じて体験してきた退歩というものを持たなかつたのである。また彼らは、宇宙旅行に関する解答を学びとつていた人類から援助を受けた。金星や火星、その他この太陽系内の他の惑星群では、その科学者たちが大自然界の秘密やその活動、反応などを深く研究して、満足すべき結果を得た。こうして他の宇宙旅行者の援助やインスピレーションによって、地球人がいま得ようとして努力している物事を彼らは大昔に達成したのである。

宇宙数学

現代の数体系を教えられてきた読者には奇妙に思えるかもしれないが、大自然は「1プラス1は3」という原理にもとづいて作用しているのである。互いに関係あるものとして集められた陽と陰は、その結果として右の式の第三番目を生み出している。これは「子供」であつて、その子供の内部には元の二つの基本的な力の何パーセントかが保たれている。言い換えれば、この子供は自身の内部に両親の恩恵を宿しているのである。この法則の作用がなかつたならば、食物も、いかなる種類の生命の持続も存在しないだろう。

この法則は大昔に地球でも知られて応用されていたが、どこかで「ゼロ」が我々の数学に導入された。しかしゼロによって表現されるような休止または無の状態は大自然のどこにも存在し得ない。し

ながって大自然の法則のなかには10または20などはないのである。

数学上の宇宙の原理は我々を1から9まで導くのであつて、ゼロを加えた数字にまでは行かない。かわりに、それは9から9プラス1へと進んでゆく。つまり91のようにあらわしてよいだろう。9プラス9すなわち9.9までゆくと、計算は9の倍数である18となり、そこから181となつて進み、次に18.9となつて、ふたたび9の倍数である27となる。このようにして限りなく計算が進んでゆく。

地球の数大系にはゼロすなわち「無」を導入したために、地球人が宇宙的な数学の用語で考えるようになるまでには多年を要するだろう。

「空飛ぶ円盤の背後」の中でフランク・スカリーは、約十二年ない十五年ばかり前に最初に墜落した（別な惑星から来た）宇宙船を地球の科学者が調査したところ、船体のあらゆる度量衡が9という数字で分けられることがわかつたと述べている。こうして彼は宇宙船の建造に応用された宇宙の数学の最初の手がかりを与えたのである。

彼の著書は宇宙船のこうした問題について書かれた最初の書類の一つであつて、当時でさえもこのような事実を認めることを恐れた反対派によってひどく否定されたけれども、この書はこれまで決して反証をあげることのできなかつた文献として存在している。大気圏外からの訪問者やその宇宙船に関して書かれた数百の書物のなかで、スカリーの著書はこの問題の真相を伝えたきわめて少数

の書物の一つなのである。

宇宙の原理に従って建造されたこれらの宇宙船は、宇宙の力（複数）にもとづいて作動する。我々にはこの力についてまだまだ多くの学ぶべきことがあるけれども、科学者はこの理解を得ようとして絶えず研究を続けている。

危険な核爆発

原子の研究は彼らの最初の努力の成果である。その危険性と建設的な利用の可能性の両方について彼らは多くを学んできた。地球人がこれまでに開発した原子の爆発力は恐るべき破壊力を有している。原子は万物の建築ブロックと考えられているのに、これはなぜだろう？ 大自然

においては原子は親和力と調和的な効果をもつ他の原子と結合する。しかし、地球の科学的成果においては原子の自然の結合を分離させて、相互に親和力をもたない元素類を無理に結びつけようとしてきた。自然の同伴者を取られた陰または陽は、相手と訣別してほかの同伴者を探そうとして全力を尽くすのであるが、圧力のもとに閉じ込められているので、適当な条件が与えられると、爆発の力と、アンバランスな原子がもとのバランスのとれた状態になろうとすることなどから、爆発は悲惨な結果となるのである。

これまでに原子の研究にたずさわった科学者は、ある元素類の利用法を発見してきたけれども、一方では蓄積されて致命的な状態となるような別な元素類を同時に多量にかかえている。彼らはこの廃

物の利用法をまだ発見していないので、それを大きな鉛のドラムに閉じ込めて海中へ投下している。しかしこれはその問題の正しい解決法ではない。これらの圧力をかけられた元素は脱出しようとしてそのエネルギーを出し続けるだろう。そしていつかは親近性をもっている他の元素類に加わろうとして逃げ出すだろうし、その結果、あらゆる種類の生命が悲惨なものとなるだろう。

一方、他の惑星の科学者は、地球人が捨ててしまうような元素を利用する方法を発見している。つまりその元素を他の元素とある釣り合いを保って結合させ、それによって使用可能なエネルギーを得る。こうして彼らは自分の惑星の自然のバランスを保つのである。

地球人をとがめなかった

地球人よりも知的にはるかに進歩している人々がなぜ事故を起こし続けるのかという理由は、人によつては理解するのが困難であるかもしれない。しかし考慮すべき未知の要素が常に存在することを我々は忘れてはならない。彼らの惑星上の鉱物は地球の鉱物と似ている。あらゆる種類の金属を研究したり扱ったりしている地球の科学者、製造会社、職工たちは、金属が予想どおりに反応しないような状態がときとして起こることを知っている。地球人が「くたびれた」金属を解明してからそう長い年月はたっていない。大自然の多くの状態はさまざまの結果を生み出す。そしてその多くは期待したと

おりになることもあるが、そうならない場合もある。大自然それ自体でさえも思いもよらぬ方法で物事を行う習慣を持っているが、人間の努力が干渉するときは特にそうである。

人間もまた大自然の予言し得ない産物である。こうして人間の努力の結果は、大自然の他の産物とともに働いているときでも、どうしてもなんらかの誤ちをおかしやすく、それが大なり小なり事故を起こすことになるのである。

賢明な人間はどこに住んでいようとこのような体験のすべてから何かを学んでいて、たゆまざる努力によって人生の行路を前進するのである。

多数の宇宙船を地球の大気圏内に飛ばせて地球人にくわしく観察させているこの宇宙の旅行者たちが、この世界に存在する多くの分裂や無理解を知るのに長くはからなかった。彼らの歴史はこのような状態の誤っていることと、我々が今日体験しつつあるような必然の結果とを示した。宇宙の計画は各惑星の一体化した人々のためにあるのである。

彼らが地球へ飛来する本来の目的は、地球からの援助を求める信号だと彼らが考えた現象に反応するためと、必要ならば我々の太陽系内に発生する自然の変化を地球人に気づかせるためであったけれども、彼らはまた地球人が人間関係の概念の枠をひろげるのを助ける方向にもその努力を転じたのである。これは地球人の核による破壊を目指したむこうみずな競争を地球人がやめるようにするためにあ

地球人とのこの親しい交わりによって、地球人がこの惑星を取り巻く大気圏ばかりでなく、自分自身についてもいかに正しい理解をしていないかを彼らは知って驚いたのであった。人間が一部分をなす宇宙のいかなる物にせよ地球人は真の知識をもつてはいない。実際には電離層、保護的な役目を果たす電磁場とその目的など何も知らなかったのである。

発生している物事や、あの不思議な宇宙船の所有者などをもっとよく理解したいという方向に地球人の好奇心が刺激されることを望んで、彼らは地球の大気圏内を巡遊するために大型船や小型円盤などの宇宙船の数を増して地球へ派遣した。彼らが存在することによって彼らの親切さ、他人を非難しないこと、万人と友達になりたいという彼らの積極的な気持などから、地球人が感化を受けることを望んで、宇宙から来る次第に多くの人々が地球人のあいだで暮らすために着陸した。しかもときおりの会話によって彼らは生命と宇宙のより大きな概念に向かって眠れる人々を目覚めさせることができたのである。

とはいうものの、地球の上空に彼らの宇宙船が出現したことによってひき起こされた多くの恐怖を彼らはしばらくのあいだ気づかなかつたし、またこのような恐怖が地球人を刺激したその深さをも考慮することができなかった。つまり彼らを撃ち落とせという官憲の命令が出たことも知らなかったのである。その結果、宇宙船のなかには破壊されたものもあり、乗員が殺された例もあった。

生命とその永續性に対する理解力をもつにもかかわらず、彼らは地球人のこのような行為をがめなかった。彼らの技術的な装置によって詳細な観察をするために接近して来ることはあるけれども、地球の航空機とその攻撃能力の及ぶ範囲を避けることを彼らが知るのに長くかからなかった。彼らはまたときとして船体のフォースフィールド内の反発力を増大して、地球の弾丸の小さいものならはね返すこともできた。こんなふうにして彼らは自身の危険を少なくして、目的の仕事を続けることができたのである。

(第1章終り。以下次号)

訳者付記

この書は二十年前の一九六一年に原書の初版が刊行されたのであるが、内容は現在もきわめて重要で、「宇宙からの訪問者」と共にUFO研究者にとって不朽の古典ともいえるべきものである。

題名の「さらば空飛ぶ円盤」はUFO問題との訣別を意味するのではなく、UFOに関する情報提供はここでひとまず手をおいて、今後は宇宙哲学の啓蒙活動に専念するという意味であることを当時編者宛に知らせたことがある。しかしこの書の発行後もアダムスキーはスペースビープルとコンタクトしたり、円盤に乗っていたことはたしかである。

予告 G・アダムスキー 久保田八郎訳 久保田八郎著 宇宙からの訪問者 7つの謎と奇跡 出版記念会開催!

かねてよりジョージ・アダムスキー氏の名著「宇宙からの訪問者」(実見記と同乗記の合本・久保田八郎改訳決定版)がユニバース出版社より刊行され、アダムスキー問題についての啓蒙に大きな貢献を果たしてきましたが、今回その豪華保存版が同社より限定出版されました。これによりアダムスキー氏の偉大な体験と宇宙的思想が今後ますます伝えられることが期待されます。

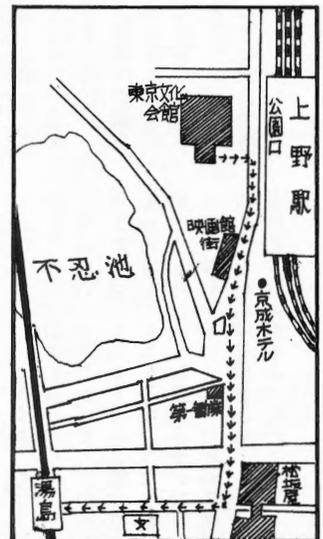
また日本GAP会長・久保田八郎先生は5月末に驚異ノンフィクション・ミステリー「7つの謎と奇跡」を主婦の友社より出版される予定で、これもまた宇宙の謎の解明に多大の貢献をされることでしょう。

今日まで私たちGAP会員がこの「宇宙からの訪問者」から受けた深い感銘と数々の恩恵は計り知れないものがあります。今回の豪華保存版の出版を機にこのことを再認識しようではありませんか!

そこでこのたび、日頃ご指導頂いている久保田八郎先生、並びにこれらの本の出版にご尽力頂いた出版社の方々に感謝の意をこめて日本GAPの有志一同で、次の要領で出版記念会の開催を企画いたしました。ご多忙中とは存じますが、多数ご参加下されば幸いに存じます。

* * *

- 日時 7月4日(土) 午後6:30~9:00
- 会場 健保会館 地下1階大ホール(港区乃木坂)
※ 上野の東京文化会館における7月の月例会を5:30に終了後、徒歩で上野の松坂屋デパートまでゆき、その角の十字路を右折して300メートルで地下鉄千代田線「湯島駅」より代々木上原方面行きに乗車。約15分で「乃木坂駅」に下車して健保会館方面出口へ出ればすぐそばが会館です。
- 会費 ¥4800 立食形式。当日会場受付で納入して下さい。当日は余興として楽団演奏、豪華福引、その他のだし物があります。
- 出席申込先 出席ご希望の方は「出版記念会に出席します」と記して6月20日頃までハガキで下記へ申込んで下さい。
〒133 東京都江戸川区本一色町306 星川荘
山口 緑
- 宿泊 健保会館内に宿泊できますが、宿泊希望者は必ず下記宛に5月末までにハガキで申込んで下さい。
〒150 東京都渋谷区東3-24-9 サンイーストビル2F
ワールドセブントラベルKK 田中 正(シングル泊¥3,900程度)



GAP会員必読の書!

5月20日
全国書店一斉発売

7つの謎と奇跡

●驚異ノンフィクション・ミステリー 久保田八郎著 四六判220頁 880円

ルールドの奇跡 聖女ベルナデットの奇跡の現象と、大生物学者アレキシス・カレル博士が目撃した驚くべき瞬間治療の実話を克明に描写し、感激の涙の物語に沈めたムー大陸の栄光を残す。宇宙考古学の史実を实地視察により記述し、歴史の目撃事件を列挙して読者を熱狂させ、驚異の淵にひきずり込む。

奇跡の超能力手術者 ブラジルの名高いアリオゴの劇的な生涯と神秘的な超能力手術の数々を描いた感動の名篇。彼こそ真正正銘の大超能力者だったのシベリア謎の大爆発 一九〇八年六月にシベリアで発生した世にも不思議な大爆発は別な惑星から来た宇宙船の恐るべき最後か? 論議の消えぬ謎。フアティマの謎の太陽円盤 一九一七年、ホルトガルの寒村フアティマで三人の子供をめぐって七万人の目撃者の眼前で驚天動地の大事件が発生した。月面に着陸したアポロ宇宙飛行士たちが驚異の大建造物を発見した真相を暴露。米航空宇宙局はひた隠しにした。

●ノンフィクション・ミステリー 研究の第一人者が綿密な調査研究により書き下した驚くべき実話集!

主婦の友社

7つの謎と奇跡

驚異ノンフィクション・ミステリー

久保田八郎



故ジョージ・アダムスキーの体験し思想のすべてを伝える記念すべき著作の特別限定保存版完成!

宇宙からの訪問者

限定保存版 偉大な惑星人との会見記 限定版定価2400円 送料300円

ジョージ・アダムスキー著 / 久保田八郎訳 四六判 上製 318頁

遠い惑星から高度に進化をとげた人類が巨大な宇宙船に乗って地球の救援にやってくる。 壮大な宇宙空間の大スペクタクルと驚異の事実を伝える本書はまさに20世紀最大のドキュメントである。このたび、すでに歴史的な記録書となった本書の判型を四六判に拡大してデザインも一新、ハードカバーの上製保存版として限定部数を読者に贈ることになった。

「この書は『空飛ぶ円盤見聞記』と『空飛ぶ円盤同乗記』との改訳合本

ユニバース出版社





「アメリカ南米宇宙 古学の旅」を回想して

(最終回)

〈到着順に掲載〉

素晴らしかった
カリフォルニアのピスタ

愛知県 大内清子

アメリカ、ペルー、ポリビアへの旅行に参加した私は本当に幸運でした。このような遠い国々への訪問はよい思い出となりました。ピスタの町にはアダムスキーが住んでいた所であるから、いつの日かここを訪れることが出来るだろうかと以前から思っていました。これが現実になったことは感激でいっぱいでした。

パロマーガーデンズの広い傾斜地の丘には低空の円盤から金星文字のプレートが投下された場所という説明を聞き、私なりにその様子を空想しながらこの場所を写真におさめました。

ピスタでの思い出は、イングリッド夫人とほんの少しの時間でしたが会話をかわすことが出来ました。面前にいるだけでもあたたかな微笑の感じが伝わってくるのがわかります。それでも私は感激のあまり緊張してしまい、いろんなことを聞きかかったのですが、ボーッとなくなってしまったのです。しかも英語が全く話せずセルチャウ康子さんに通訳をしていたのですが、南米はどちらをまわるのですかと聞かれ、ペルー、ポリビアとおもった所を答えました。遠いゆえ身体に十分

気をつけて旅を楽しんで下さいと言われました。この夜の日米GAP合同夕食パーティーの雰囲気はとても素晴らしかったです。

こうしてあくる日の早朝、ぜひ一度は行ってみたい場所であるデザートセンターへと向かう。バスを降りて暑い日差しを歩いてコンタクト地点へ向かいました。ステックリング氏の説明により、二千年前に重大な意味ある場所だったことを聞き、新たな感動が胸にわいてきました。なんの変哲もないこの広大な砂漠で、なぜここでコンタクトが行われたのか？説明にてその人物がだれなのかわかりました。人間は転生するという生命の連続を物語る場所をアダムスキーは、はつきりと私たちに示してくれたのだと思います。——以下略

視野を広げた アメリカと南米旅行

山形県 清水 正

旅行に参加しようと思ったのは、南米に行くという知らせを聞いてからでした。以前からここには行かなければならないと思っていたからです。

これまで海外へなど行けると思ってもみなかったことが、いざ行くんだと決めた時から自身に何らかの変化が起こり始まりました。それは小さく自分の中に閉じ

こもっていたものから殻を破って外へ飛び出すような感覚で、きつと良い原因をイメージとして持ったからだと思いましたが、自由な明るい気持ちへと変わってゆきました。それ以来自分が中心で動いているように思えたり北から南へと日本全国のGAPのかたがたと知り合う機会もできて毎日最高の充実感であふれました。ロサンゼルスのかたい空気、自由と明るい日射しに気持は晴々として、リマに着いたら湿った空気と、いたたまれない感じ。行く先々の印象の違いは大きいものでした。アメリカとペルーの現実、その国の抱えている問題、カルマやパワーを見ました。

毎日が忙しい日程だったかもしれませんが、デザートセンターでのひとときやアンデスの大自然にふれた十時間の列車の旅、列車の中で少しの間ペルーの人と交流をもてたこと、青く澄みわたる思い出残る美しいティティカカ湖など、興味の尽きないリラククスした活動的な旅で体も疲れを知りません。

高地へ行くということで体の不調をきたす人も見かけましたが、お互いにいたわりあいや親切さもあり、六十人の大部隊は大変調和していました。

旅行の場面を思い出すごとに顔は微笑となつて、すばらしい旅だったなあと思ひ、あのまま日本に帰りたくないという気持ちがありました。帰って来て、ここではなすべきことの多いのに気づき、それが視野を広め地球のレベルを知ってからのことですから、きつとこれからの成長に役立つことと思ひます。

このようなすばらしい旅行を企画され、そして大変お世話していただきました久保田先生、田中さん、参加されましたGAPのかたがたに感謝します。どうもありがとうございました。これからも宇宙的な生き方をすべく、信念をもって積極的な明るい理想をもてるように心掛けたいと思ひます。

毎年参加したい

大阪府 斉藤康美

今回の素晴らしい旅行に参加させて頂き、ありがとうございます。おかげさまで毎日楽しく送ることが出来まして全く感謝の気持ち一杯です。これ程の素晴らしい旅行になるとは、ただただ先生と田中さんの名コンビの企画とご努力によるもので心よりお礼を申し上げます。

のんびり親しみたいパロマーガーデンズ、夕食会時の本部の方々の先生に対する強烈な信頼感、やっと来れたという実感のデザートセンター、あまりの嬉しさに暑さも吹っ飛び、インディアンの方を見て小石を拾い、バスに乗りましたときは、もう少し良かった気持ち——。

同乗記を読んで以来長年の夢がやっとかないました。全く先生のおかげです。その他想像を絶した南米の遺跡群、ナスカ平原、陽気なロサンゼルスバスドライブ、各訪問先のガイドさんの親切、ナスカへ行くとき助手席に座らせて下さったパイロット、リマで同県人と言われた夫人の親切心、リマからの帰りに同席同番号の手違いによりファーストクラスへ座

れたこと、サンタモニカで私達を歓迎するかの様に飛び交うハトの群れ、またここで私達に声をかけてくれ、日本を讀めてくれた黒人、早朝海水にふれたとき日本の大地にふれたという実感、話しかけると、こころよく話を下さった同行の会員の方々、またまたあらゆる所に満ち溢れていた創造主の祝福の感じやスペースビープルからの祝福の感じ。

これらの事や、その他、楽しくしてくれた他の出来事を思うたびに、毎回のように参加される人達の気持がや々と分かったような気がします。それ程私には素晴らしい旅でした。また、ふだん気づかなかつた事や反省すべき事を色々教えてくれた旅でもあり、やはり年一回はこういう旅をする事の重要さをつくづく感じました。出来ることなら毎年参加したいです。本当に良い旅をありがとうございました。

人間の宇宙的行為の素晴らしさ

東京 山口 緑

この度は大変に有意義なる素晴らしい旅行に参加させて頂きありがとうございました。この貴重な体験は生涯忘れ得ぬものであり、決して消え去ることはないでしょう。初めての日本脱出でしたが、やはり諸国を回り、地球上の実態を知り認識することは絶対に必要であり、また心の拡張の上で大きく貢献してくれるという事を肌身で感じた次第です。

私は少年時代からなぜかアメリカ大陸に関心があり、書物やテレビでもアメリ

カの方がでてくると喰い入るような興味をそそられていましたが、そのアメリカ大陸に自分の足を降ろしたときには、その興味と感動はひととき高揚しました。車窓から眺めるカリフォルニアの町並みはとてもなつかしく感じられ、胸のつまる思いでした。絵巻を見るように次々と展開する風景は飽きことなく、全く自然に流れてゆきました。

そしてついにパロマーガーデンズやデザートセンター、GAP本部とかつてアダムスキー氏がスペースビープルとともに活躍された場所に立ったときは、興奮おさまらず、無数の印象が湧き起こってきました。アダムスキー氏には時間的にも空間的にも接したことがないのに、これらの地ではその面影が強烈なフィリングとして湧き起こってきました。

日米合同夕食会では本部の素晴らしい方々と接する機会を得、その宇宙的フィリングを体じゆうに感じる事ができましたし、幸運にもかけてからの私の内部にあった疑問がF・ステックリング氏によって最高の解答が与えられました。私たちは今を愛と奉仕の精神で生きようべきで、そう生きようならば決して悪いようにはならない。重要なのは「過去」ではなく「現在」なのである。これらのメッセージは決して忘れ去ることのできない永遠のものとなるでしょう。

ビスタは去り難く、一時はガイドさんにビスタ永住の相談をしようかと真剣に考えたほどでした。続く南米ペルー、ボリビアでは大きな試験が待っていました。運悪くクスコで軽いめまいにかかり、多

くの方々に迷惑をおかけしましたが、久保田先生より頂いた有機グルマニウムによって即時回復し、心から感謝しました。この旅行では人間の宇宙的行為の素晴らしさを感じずにはおれませんでした。ラパスのホテルではひとりエレベーターで階下に降りていましたが、途中ルームキーキングの仕事をしている女性が重い二つのスーツをかかえて乗り込んできました。そして降りるときになつてそのひとつを持ってやりますと、彼女は今までこんな親切を受けたことがない、と言わんばかりの恐縮さを示され、こちらもそれ以上に恐縮してしまいました。実にささいなことでしたが、彼女にとっては大きかったのでしょう。これがひとつ大きな発見をしました。言葉や説教は彼女には通じずとも、宇宙的行為は明確に通じるということです。どこの国の人間も根本は同じであり、同じ宇宙的衝動——

幸福を求めているんだ、と思いました。何ひとつとっても興味深く、有意義な旅でした。この貴重な体験は生涯消え去ることはないでしょう。この旅行のために細心の配慮を払われた久保田先生と田中さんに心から感謝しますとともに、多くの点でお世話頂いた参加者各位に敬意を表するものです。

限りなく愉快だった「アメリカ南米宇宙考古の旅」

広島県 夜船博実

この度はアメリカ南米宇宙考古の旅に参加させて頂いたこと、すばらしい日々をすごさせて頂いたことができました。

第一日目の夜の日米合同夕食会では、初めてアメリカ本部の方々とお会いでき一目見るなり、とてもすばらしい人たちだなあと感じました。なんだか自分がとても小さく見えるようで；とても光栄に思っています。

また、次の日にはアダムスキーが金星人オーソンと会見した場所に自分自身の足で立つことが出来て感激でした。ペルーではマチュピチュのすばらしい遺跡にはびくりしました。よくまあこんなところに、これだけのものを作ったものだ。汽車が遅れたためにここでの滞在時間が短くなりましたが、もつといて、よく見たかったという気がしてなりませんし、マチュピチュやプノへ向かう山岳列車の中からの雄大な景色はすばらしいものでした。

ラパスでの夜の夕食会では、まったくすばらしいとしか言いようのない民族音楽を聴くことができて感激してしまいました。機会があればもう一度聴きたい気持です。

ナスカの地上絵では、飛行機に乗っている間、気分が悪くなりまして、写真はあまり撮ることができませんでしたが、地上絵ははつきりと脳裏に焼きつきました。古代の人々はこれをどんな気持で描いたのだろうと思うと、なんとなく不思議な気持にさせられます。

あつという間の十四日間でしたが、今思い出してみても旅行中のさまざまな思い出がはつきりと浮かんできます。本当によい旅行をさせて頂いたこと、有難うございました。

主要訪問地紹介

■**ロサンゼルス** 米カリフォルニア州の州都で人口 300 万。アメリカ第 2 の大都市で美しい町です。気候が温暖で住みやすく、日系人も沢山いて、リトル・トーキョーという日本人町もあります。東洋方面からの表玄関といえる航空路線の重要基点です。

■**パロマー天文台** ロサンゼルス南東 150km のパロマー山頂、標高 2,000m の台地に 1948 年 6 月に建設された、当時世界最大の 200 インチ反射望遠鏡を設置した天文台。紺碧の空に高さ 60m の純白の大ドームが美しく浮き上がっています。ドーム内で望遠鏡を参観します。

■**パロマーガーデンズ** 1950年代頃にアダムスキーが俗界を離れて門弟たちと共に約 10 年間住んだ場所で、パロマー山の山頂付近にあり、現在はキャンプグラウンドになっていますが、高弟のアリス・ウェルズ夫人が経営したレストラン跡やアダムスキーが自ら建てた木造の木小屋は記念物として保存してあります。

■**アメリカGAP本部** カリフォルニア州南部のビスタ市にあるアメリカGAP本部（正式にはジョージ・アダムスキー財団）は、かつてジョージ・アダムスキーが住んでいた場所で、現在も建物は残っており、高弟のマーサ・ウルリッチさん、フレッド・ステックリング夫妻、ステープ・ホワイティング氏らが活動の本拠としています。アダムスキーの寝室や遺品類も保存されています。ビスタ市には 2 泊して 2 日目は本部で質疑応答会を行い、夜は日米合同の大夕食会を立食形式で開催します。

■**デザートセンター** カリフォルニア州南部のモハービ大砂漠の一部で、1952年11月20日、アダムスキーが 6 名の目撃者と共に、着陸した円盤から降り立った金星人と会見した場所として有名になりました。詳細はア氏の著書「空飛ぶ円盤は着陸した」に述べてあります。

■**グランドキャニオン** アリゾナ州北部にある雄大な大峡谷で、長さ約 350km、幅約 20km のカコウ岩、ケツ岩、石灰岩などの岩層が奇怪な形をなしてつらなり、大景観を呈しています。近くのフラグスタッフ市へ 1 泊して、峡谷の南側リムから遊覧電車で見学します。このあとロサンゼルスに 1 泊の予定です。(希望者のみの旅行で、追加料金を要します)

■**メキシコ市** 「太陽と情熱の国」メキシコの首都で人口では世界有数の大都市です。かつてはアステカ帝国の首都でしたが、16世紀にスペイン人コルテスに征服されてからスペイン風の大植民都市に変わりました。往時の栄光とインディオの土俗的雰囲気とが混交して独特なエキゾティシズム(異国情緒)に満ちています。ここに 3 泊して市内及びローカル色豊かな近郊を見学し、陽気なマリアッチの民族音楽に陶酔しながら夕食会を開きます。

■**テオティワカンの大遺跡** メキシコ市の北東 50km にある古代の大宗教都市。謎の民族により 2,000 年前頃太陽と月の二大ピラミッドが建設され、その間を「死者の大通り」が貫き、多数の神殿跡も残っています。「太陽のピラミッド」は高さ 60m の壮大なものです。

■**パレンケの遺跡** マヤ古典期の至宝ともいえるべき「碑銘の神殿」ピラミッド、「宮殿」「太陽の神殿」その他の素晴らしい遺跡が残っていますが、特に「碑銘の神殿」ピラミッドの地下には名高い浮彫を施した石棺があります。ジャングル中の幻想の世界といえるでしょう。

■**ウシュマルの遺跡** 美しい町メリダに 1 泊後、南方 80 km の所に位置する古典期末期のブーク様式のウシュマルへ行きます。特に「魔法使いのピラミッド」の偉容、優美な「尼僧院」「総督の館」の大建造物その他に圧倒されます。

■**チチェンイツァの遺跡** メリダから 120 km の広漠たる大草原に残るマヤ後古典期文化の最大の遺跡で、カスティーリョ(城)と呼ばれる壮麗な大ピラミッド、「戦士の神殿」ピラミッド、「球戯場」天文台といわれる「カラコル」、いけにえが投げ込まれた「聖なる泉」その他が見学者を魅了します。

★以上、メキシコ、ユカタン半島の古代マヤの各遺跡を一度見たら最後、その妖しい神秘的な魅力にとりつかれて何度も行きたくくなります。ここにはム大陸の宇宙思想を源泉とする宇宙的な雰囲気^ムがただよっているのです。アダムスキーもかつてユカタン半島の宇宙関係遺跡探検を計画したことがあります。

■**カンクン** ユカタン半島北端のカリブ海に面した美しい海岸町で、ここに 2 泊してゆっくり休養します。青緑色の澄んだ海、信じられぬほどキメのこまかい純白の砂浜、灼熱の太陽——。日本人がほとんど行かない、俗化されぬこの素晴らしい保養地で 1 日、心ゆくまで海水浴を楽しんでください。

■**ディズニーランド** あまりにも有名なこの巨大な施設はカリフォルニア州アナハイムにあり、ロサンゼルスへ帰って見学します。特に夜の「光の大パレード」が圧巻で、これも見ます。詳細はニューズレター第 70 号 16~17 頁を参照してください。(希望者のみの旅行で追加料金を要します)

★今度の旅行は全体的にゆったりとした愉快的な旅です。思いきり異国の風物に堪能し、いつまでも胸に残る懐かしい思い出に満ちた日々となるように久保田も田中も精一杯の努力をしますから、日本人団体の海外旅行としては最高に素晴らしい「宇宙への旅路」となるでしょう。





第3回日本GAP海外研修旅行



アメリカ^{メキシコ}カリブ^海宇宙考古学の旅

■日本GAPは海外研修として1979年より毎夏海外旅行を実施し、いずれも大成功裡に帰国しましたが、1981年8月も下記の内容でアメリカ西部とメキシコの古代マヤの遺跡見学の旅を行うことになりました。■例年と異なって今回はアダムスキーゆかりの地たるカリフォルニア州ピスタに2泊して半日は米GAP本部で質疑応答会を開き、パロマー天文台はもちろん、アリゾナ州の世界的大景勝地グランドキャニオンを見学し、メキシコではメキシコ市に3泊するほか有名な古代マヤの遺跡4カ所を視察したあと、ユカタン半島北端の美しい海岸町カンクンのエメラルドグリーン色に輝くカリブ海で海水浴に打ち興じてロサンゼルスへ帰り、最後は夢の国ディズニーランドで終日楽しむというリラックスした素晴らしい旅が実現します。■名コンビの久保田八郎と旅のベテラン田中正が豊富な経験を生かして企画した手作りの旅行は日本GAP独特のもので費用・内容とも他社の追随を許しません。多数ご参加の上、生涯忘れ得ぬ思い出を残して下さい。

G.アダムスキーの大地と雄大な米西部へ！
謎の古代マヤの遺跡と美しいカリブ海へ！



- 定員 65名
- 期間 昭和56年8月15日→29日
- 費用 ¥558,000(航空運賃、朝食付ホテル代、団体バス運賃、その他の費用を含む。★24回払い可能(毎月約¥26,000払い)
- 主要見学地 右頁を参照
- 案内書 千133 東京都江戸川区本一色町365-818
日本GAP (140円切手同封のこと)
- 旅行団長 日本GAP会長 久保田八郎
- 添乗員 ワールドセプトラベル社 田中正
- 企画 日本GAP
- 主催 トラベル日本
- 協力 アメリカGAP本部
- 取扱代理店 ワールドセプトラベル株式会社

※この旅行は日本GAP会員を主体にしたものですが、会員でない方も参加できます。
知人等にお誘い合わせの上、多数ご参加下さい。

日本GAP

年月日	曜日	場所	時間	交通機関	備 考
1981年8月15日	土	成田発	午後	航空機	一路、ロサンゼルスへ 着後市内見学 夜は渡米懇親パーティー(全員自己紹介) (ロサンゼルス泊)
8月16日	日	ロサンゼルス着	午後	専用バス	パロマーガーデンズ、パロマー天文台視察 ピスタ着後ホテルへ (ピスタ泊)
8月17日	月	ピスタ滞	在		午前：自由行動 午後：米GAP本部にて旅行参加者との質疑応答会 夜：日米合同夕食会(立食形式) (ピスタ泊)
8月18日	火	ピスタ発 デザートセンター ロサンゼルス着	午前 夜	専用バス	アダムスキーと金星人との会見地デザートセンターを視察 (ロサンゼルス泊)
8月19日	水	ロサンゼルス滞	在		終日自由行動 (希望者はアリゾナ州の雄大な大峡谷グランドキャニオンへ小旅行) (ロサンゼルス泊)
8月20日	木	ロサンゼルス発 メキシコシティへ	午前 午後	航空機	メキシコシティ-着後市内見学 夜はレストランにてマリアッチの民族音楽を聴きながら夕食会 (メキシコシティ泊)
8月21日	金	メキシコシティ滞	在		終日：テオティワカンの壮大な遺跡視察 (メキシコシティ泊)
8月22日	土	メキシコシティ滞	在		終日自由行動 (希望者は国立人類学博物館見学か近郊のオプションツアーがあります) (メキシコシティ泊)
8月23日	日	メキシコシティ発 ビリアルモアへ	午前	航空機	ビリアルモア-着後マヤ文明遺跡の中でも最も重要な宗教都市であるパレンケの遺跡を見学 (ビリアルモア泊)
8月24日	月	ビリアルモア発 メリダ着	午後 夜	航空機	マヤとトルテカ人の混合文明、チチェンイツツの遺跡を見学 (メリダ泊)
8月25日	火	メリダ発 カンクン着	午前 午後	専用バス 又は 航空機	マヤ古典期後期の爛熟した文化の姿を伝えるウシュマルの遺跡を見学 (カンクン泊)
8月26日	水	カンクン滞	在		終日自由行動(美しいカリブ海の保養地カンクンで終日楽しんで下さい)夜は、さよならパーティーを開催の予定 (カンクン泊)
8月27日	木	カンクン発 ロサンゼルス着	午前 午後	航空機	ロサンゼルス着後自由行動 希望者はディズニーランドへ (ロサンゼルス泊)
8月28日	金	ロサンゼルス発	午後	航空機	一路帰国の途に (機内泊)
8月29日	土	成田着	夕方		成田空港着後、自由解散

には木星と土星が輝いています。私はその星たちを見てみると、いつも言葉にあらわせないような感動を覚えます。また自分がそのすばらしい星たちに見守られているように思えてうれしくなります。一日の始まりにこういう宇宙的な感動や想念を与えてくれるすばらしい環境に自分があることをあらためて感謝させられます。

ピスタのGAP本部を訪問

在米 舩氏典

先生から教えていただきました。ステッククリング氏の住所を頼りに学校の冬休みを利用して私の親友と二人でサンフランシスコからピスタまでドライブしました。電話連絡がうまくゆき、約束の時間より少し早くGAP本部に着きました。本部ではイングリッド夫人、ステッククリング氏、マーサさん、ホワイティング氏、それにもう一人の男性に温かく迎えてもらい、とても幸せな思いでした。

一時間くらいステッククリング氏からいろいろな話を聞いた後、みんなでテーブルを囲んでケーキをご馳走になりました。その席でイングリッド夫人が転生を信じるかと聞くので、もちろん信じるかと答えたら、私と友達達の山本君の過去世を静かな口調で話してくれました。過去世で白人であったこと、それに中国人でもあり山本君とは前世で東洋でお互い親密であったことなどです。これは私が長い間信じていたことなので、やっぱり正しかったのだという、なんともいえない気持ちでした。山本君はアメリカで日本GAPの

ことを私からきき、感激して、日本から送ってもらったニューズレターを愛読しています。なかなかの好人物で、私とびつたりフリーリングが合うのです。このことが彼の父君にまで波及して、日本で「テレバシー」「生命の科学」などに読みふけているそうです。

とにかく恐縮二人のために時間をさいて下さり恐縮のかぎりでした。帰るときには「テレバシー」と「同乗記」の英語版をプレゼントして下さいました。それで今夏、先生の一行がピスタを訪問される折、必ず行こうと二人で誓いあっております。

中略

私は今白人の熱心なクリスチャンといっしょにアパートに住んでおります。教会のミサにも何回か出席しましたが、そこで感じましたことは、彼等はまったくクリスト教に洗脳されてしまっているということです。一度ちょっとアメリカ人ににだまされてクリスチャンの集いに連れて行かれたことがあります。その席においてアダムスキー哲学にすこし触れ、バイブルは比喩的に書かれていることを述べたところ、みんなからよってたかって攻撃されました。あまりにみんなに柔軟性がないので悲しくなって帰って来られたのはわかっておりました。こんな人達は総じて私生活がでたらめなのです。先生が日本の地でGAPを主宰され、これだけの発展を上げられた理由がわかるような気がします。この高度な教えはキリスト教を基盤として育ってきた白人には無理なのではないかと思えます。

(編注)舩氏は長崎県出身。現在カリフォルニア州立大学ヘイワード校に留学中のGAP会員)

素晴らしい東京月例会

帯広市 大橋博子

先日二月の東京月例会に出席して、とても素晴らしい時を過ごすことが出来ました。私にとって東京の月例会は無縁のものと思っていました。折よくその頃私用があり、出席出来る機会を得たというのも、ひそかな期待を意識のどこかで持っていたからかもしれません。

当日は東京の人波で頭が重苦しかったのですが、会場に入っていくの間に少しずつ生きてきました。東京に来ると一般の人々の波動がこちらに突きささってくるように感じますが、会場に入って、ほんとうにホッとした気持ちでした。

先生のお話をテープじゃなく目の前で聞くというのはとても素晴らしいことですね。総会ですと会場が広くて先生の姿も遙か彼方に見えて遠くの人という感じがしましたが、例会ですとほんとうに目の前で夢のようでした。会場の雰囲気も皆さんそれぞれが一体となっていて、素晴らしい波動が流れていたように感じました。

総会の日、一緒に昼食をとった人から「東京に住んでいながら月例会の日には仕事があるので出席出来ない」という話をきき、距離は関係ないものなんだなあと思いました。またいつか東京月例会に出席出来るイメージを描いて実現させようと思えます。

文通のお願い

子供の頃からいつも宇宙について考えていました。二十六歳にてアダムスキーを知り、やっと最後の一步が解けた感じです。以来GAPに入会し現在三十二歳の主婦です。どんな同じ年頃の方で末永く文通して下さる方を希望致します。英語の勉強を兼ねて英文でも結構です。

千六百四〇〇四 和歌山県海南市高津 四八九一 高平圭子

女性会員の方にお願

私は二十四年間女性とは全く交際したことがありません。今までそのことでどんなに悩み苦しんできたことでしょうか。中学一年の時からアダムスキーを知り、すべての人に対して愛の心を持って生きていきたいと願ってきた私です。こんな私でもよかつたら、たとえどんな女性でもかまいません。いっしょに大宇宙のロマンについて語り合いたいです。実際に会って話しあえる女性を待っています。

千二四 東京都北区中里三一一七 樋口超一

県内の会員同志の方へ

月に一度、岩手県の会員の皆様とアダムスキー哲学について語り学びあえる機会をもちたいと思います。同志の方々のご連絡をお待ちします。日中留守をしますので電話は朝八時までと夜は七時〜九時までにお願います。

千〇二〇一 岩手県岩手郡滝沢村

「テレバシー」解説講義の筆記録第2部完成—出版
1980年度 東京月例会における久保田先生の名講義の完全トランスクリプト。ぜひ1冊をお手許におそなえ下さい。
第2部/B5判/活字タイプ印刷/¥500千200
注文は下記へ直接にどうぞ。
千986-16 宮城県柴田郡柴田町大字本船迫字内
沼田96-2 安藤澄雄 振替仙台30019

狼久保一三二二 柴田 仁
電話〇一九六一八八一三九五
毎月第三日曜に私の家に集まって「宇宙の仲間入りの会」を開き、アダムスキーの教えの実践法を研究しています。近くの会員の方はどうぞ。
千五一〇 三重県四日市市安島一 二一〇、ユキマリールンビル内
ハルオ・宮内
鹿児島県内在郷のGAP会員諸君。鹿児島県にも支部を設立しよう。
千八九一〇三 鹿児島県指宿市新 西方九九八 鶴田清則
電話〇九九三二一五一四三九九
山形支部機関誌「ユニバーサルメッセー」七、八、九号残部あり。左記宛ご注文下さい。(一部百円、送料百二十円。切手可)
千九九二 山形県米沢市松ヶ野二丁目四一三一 清水 正

日本GAP各地 行事報告と予告

81年3月以降分

▼第二回 松山支部大会

素晴らしい雰囲気だった!

三月二十二日、春風そよぐ松山城に近い全日空ホテルで一年ぶりに第二回目の松山支部大会が開かれました。久保田先生は前日夕刻、田中正氏、野口敏治氏とともに空路松山入りされて夜は有志による歓迎夕食会に出席されました。

翌日の大会には日本列島を縦断したかたちで遠方から信念と友情にあふれた会員の方々が多数出席され、午後一時より国重和彦氏の司会で大会を開始し、久保田先生がアダムスキー問題について全力投球の講演をされて出席者一同に大きな驚きと感銘を与えました。歴史上の固定観念のあいまいさを痛感した次第です。そのあと活発な質疑応答と記録映画「アメリカ南米宇宙考古学の旅」を上映。盛況裡に大会を終りました。

終了後、隣室で立食形式の夕食会を開催、三十数名が参加。高次なフィリングの充実する楽しいパーティーでした。翌日は先生と有志十数名により松山城を見学後、瀬戸内海に浮かぶ鹿島へ渡って島を一周し、エメラルドグリーンに輝くのかな海のあたたかいフィーリングを満喫。こうして三日間の全日程を終りました。

遠方の各地から来られた皆様に支部一



同心から感謝し、各地方支部大会の成功をお祈りするとともに、お世話になった松山支部の方々、全日空ホテルの担当者の方々に厚くお礼を申し上げます。
(伊藤達夫記)

▼おめでた一件

お幸せに

東京府中市の会員・石川敏雄氏は都内江戸川区出身の田中政子さんと三月二十一日に乃木坂の健保会館でめでたく結婚式を挙行され、編者は披露宴に出席して祝辞をお贈りしました。

清水水氏を応援しよう!

▼山形支部代表が交替

従来山形支部は山口緑氏が代表として活動されましたが四月より東京へ移転の

ため、後任として清水正氏が代表を引き継がれました。大活躍が期待されます。

▼青森支部が発足 頑張れ!

四月より青森支部が誕生し、県内の中根豊氏を代表に活動を開始しました。別掲月例会案内を参照の上、青森県内外の会員の方々は同支部例会にふるってご参加下さい。

▼岐阜支部は名古屋支部と改称

かねて活動を続けた岐阜支部は発展的解消をとげて五月より名古屋支部と改称し、代表も真嶋泰行氏から名古屋市の武田充弘氏・林国宜氏にバトンタッチ。別掲月例会案内を参照の上地元会員の多数ご出席をお願いします。
集まろう!

▼各地地方支部大会

五月中に静岡、大阪、仙台で、六月七日に札幌で地方支部大会が開催されます。左頁の予告を参照の上、多数ご参加下さい。各支部とも張り切って万全の準備をすすめています。

実施確定!

▼「アメリカカメキシコ宇宙考古学の旅」説明会

八月実施予定の「アメリカカメキシコ宇宙考古学の旅」の説明会を五月三十一日(日曜日)に東京・有楽町の藤間ビル七階、トラベラー商会集会所で開催します。詳細は参加申込者個々に通知が行きますが、参加を考慮の方にも一応ご出席下さい。(道順)国電有楽町駅下車、駅前の

交通会館に向かって左側面の道路を銀座方面へまっすぐに前方へ約五百メートル行くと外堀通りという大通りへ出る。道路の向かい側右方に藤間ビルが見えるので横断すればよい)

四月中旬で旅行参加申込者は二十名に達しましたので団体旅行団が成立し実施は確実となりました。申込者はそのつもりで準備をすすめて下さい。
参加希望者は早目にお申込み下さい。
(田中正記)

▼七月群馬支部月例会で久保田会長が特別講演

来たる七月十二日午後一時より群馬支部月例会に日本GAPの父・久保田会長が無限なる大宇宙の愛をもって援助に來られます。関東地方の方は万障お繰り合わせの上ご出席くださるよう切望いたします。

会場||群馬県太田市飯田町「太田市民会館」第四会議室。太田駅南口下車徒歩約十分。会費||千円。一時開会、アダムスキー問題講演(久保田会長)、三時テラパシー練習、三時四十分自己紹介・質疑応答、六時閉会。夕食会||夕方六時三十分より八時まで開催、会費は三千元程度。宿舎||近くにビジネスホテルあり。夕食会参加、宿泊希望の方はハガキで左記へお申込みください。
〒377-0105 群馬県邑楽郡大泉町下小泉一九三九-二四、いずみ寮八一-二二、服部 久。電話||二七六-六三三-二一六三または二七七一。(服部 久記)

〈予告〉地方支部大会

	松山支部大会	静岡支部大会	大阪支部大会	仙台・山形合同支部大会	札幌・旭川合同支部大会
日時	3月22日(日) 午後1:00→5:30	5月4日(月・振替休日) 午後1:00→5:30	5月17日(日) 午後1:00→5:00	5月24日(日) 午前10:00→16:20	6月7日(日) 午前10:00→4:00
会場	松山全日空ホテル 4階「弥生の間」の(西)。 松山市一番町3丁目2-1 ☎(0899)33-5511	静岡交通ビル4Fホール 静岡市黒金町55(静岡駅南口) ☎(0542)83-9234	大阪府立労働センター5F 視聴覚室。大阪府東区京橋3丁目。☎(06)942-0001 地下鉄・谷町線天満橋駅下車、松阪屋西へ200m。 京阪電車も可。	仙台市市民会館2F 第3会議室。仙台市桜ヶ丘公園4番地。☎(0222)62-4721 仙台駅前よりグリーンバス「八幡町」行きに乗り、市民会館前で下車。タクシーなら5分、¥350。	ほろへいかん 札幌市豊平館(重要文化財)2F18号室。札幌市中央区南11条西4丁目、中島公園内。☎(011)511-0985 札幌駅から地下鉄南北線「中島公園」駅下車。
会費	¥2000	¥2000	¥1500	¥2000	¥1500
プログラム	〈司会 岡重和彦〉 1:00 支部代表挨拶 (伊藤達夫) 1:05 講演「アダムスキー問題について」 (久保田八郎) 2:10 休憩・全員自己紹介 2:25 質疑応答(久保田)3:25まで。 3:40 映画「アメリカ南米宇宙考古学の旅」 5:15 記念撮影	1:00 支部代表挨拶 (野口敏治) 1:10 講演「アダムスキー問題について」 (久保田八郎) 2:30 休憩・記念撮影 2:45 映画「アメリカ南米宇宙考古学の旅」 4:15 休憩 4:30 全員自己紹介。 質疑応答 (久保田八郎)	1:00 支部代表挨拶 (平塚和義) 1:05 講演「アダムスキー問題について」 (久保田八郎) 2:00 休憩・記念撮影 2:30 質疑応答と意見発表。 5:00 閉会 今回は久保田会長を中心に徹底した話し合いの会にする予定。 多数ご参加下さい。	10:00 講演 安藤登博、柴田文子、清水正、山田文雄 12:00 休憩・昼食 1:00 講演「アダムスキー問題について」 (久保田八郎) 2:30 休憩・記念撮影 3:00 質疑応答 (久保田八郎) 5:00 閉会 今回は久保田先生を囲んで徹底した話し合いの場を設けます。ふるって発言して下さい。	10:00 支部代表挨拶 (伊藤・石川) 10:15 映画「アメリカ南米宇宙考古学の旅」 12:00 昼食・休憩 13:00 講演「アダムスキー問題の真髓」 14:20 休憩・全員記念撮影 14:40 質疑応答 16:00 終了
夕食会	大会終了後6:00から8:00まで同ホテル4階「弥生の間」の(東)で希望者のみにより開催(立食)。 会費は¥3500程度。	大会終了後6:30から8:30まで静岡駅南口の東海軒会館6階ホールで希望者のみにより開催。 会費¥4000	大会終了後6:30から8:00まで希望者のみの夕食会 会場は未定。 会費¥4000。	大会終了後6:00から8:00まで。 会費¥3500程度。 (会場未定)	大会終了後、希望者だけで豊平館内で夕食会を開催。 会費¥3000程度。
宿舎	全日空ホテルのシングル15部屋とツイン5部屋予約済、S1泊¥5500 T1泊¥9000	静岡第1ホテルをお世話します。 1泊¥4400(税込み)	新阪急ホテル(旧大阪駅のすぐ近く)をお世話します。 1泊¥6640	仙台ロイヤル、ワシントン、チサン、サンルート等をお世話します。 1泊¥4000程度。	ビジネスホテルが多数あります。 1泊¥3500程度。
夕食会と宿舎の申込	夕食会出席及び宿舎希望者は、ハガキに宿泊日と「夕食会参加」と記して2月末日までに下記へお申込み下さい。 〒794 愛媛県今治市黄金町1-4-4 伊藤達夫 ☎(0898)22-3060	夕食会出席と宿舎希望者はハガキに宿泊日と「夕食会参加希望」と記して4月20日までに下記へご連絡下さい。 〒422 静岡市西島304-9、野口敏治 ☎(0542)86-7729	大会、夕食会出席、宿舎の申込はハガキで下記へ4月末日までにお申込み下さい。 〒661 兵庫県尼崎市水堂町3-16-8 平塚和義 ☎(06)436-3478	大会、夕食会出席、宿舎の申込はハガキで4月末日までに下記へ。 〒982 仙台市東十番町1番地、国鉄アパート1-18、笠原弘可 ☎(0222)95-0725	夕食会出席と宿舎をご希望の方は宿泊日を記して3月下旬から4月5日頃までに下記へお申込み下さい。 〒071-13 北海道旭川市末広6条4丁目1158-65、石川公一 ☎(0166)51-5699
備考	3月の松山支部月例会は大会のため中止。	5月は支部大会のため静岡支部月例会は中止。	5月の大阪支部月例会は大会のため中止。	5月の仙台支部と山形支部の月例会は大会のため中止。	旭川支部報「スペース・プロムナード」を創刊。¥200 〒170 石川公一宛ご注文を。

▲アメリカカリブ海

宇宙考古学の旅

来たる八月十五日より十五日間、日本GAPは第三回目の海外研修旅行としてアメリカとメキシコをまわる素晴らしい旅を実施します。今回はリラックスしたデラックス旅行ですから多数ご参加下さい。(会員でない方も参加できます。詳細は別掲広告を参照の上、参加希望者は百四十円切手を同封して案内書を日本GAP宛ご請求下さい。定員四十名で、まだ空席がありますから希望者は早目にお申込み下さい。別項予告どおり五月三十一日に東京で第一回説明会、七月二十一日に大阪で説明会を開催し、八月二日に東京で最終説明会を開きます。

▼本年度日本GAP総会

本年度の総会は十月十日(祭日、二日連休の初日)に東京新橋のヤクルトホールで午前十時より午後五時まで盛大に挙行する計画で、企画内容については検討中ですが、資金その他かなりの難点もありますから、まだ細目が決定せず、目下考慮中です。詳細は次号に発表します。

▼出版記念会を開催

本号三十頁に予告しました出版記念会に多数ご参加下さい。これは今回だけの記念すべき企画です。(山口 緑記)



日本GAP全国月例研究会案内

支部名	日 時	会 場	会費	携 行 品 ・ 行 事
東京本部	毎月第1土曜日 午後2:00→6:00	上野公園内「東京文化会館」4階会議室。 ☎03-828-2111。国電「上野駅」の「公園口」下車、改札口の真向かいスグ。会館正面に向かって左側の入口から入り、奥のエレベーターから4階へ行く。	¥300	2:00→3:00会員による体験講演、 3:00→3:30久保田会長の宇宙哲学講義と近況報告、テレバシー練習、休憩。 4:30→6:00自己紹介、意見発表、質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※5月は支部大会のため月例会は中止	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」☎(388)7351。 国鉄または阪急電車「吹田駅」下車。連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478	300	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」(文久書林刊)を持参。東京例会における久保田会長の講演テープを公開。テレバシー練習・研究発表・座談会
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟駅前「青年の家」☎0252-44-6766 連絡先=足立亘宏 ☎0252-62-0968	200	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」を持参。東京本部例会における久保田会長の宇宙哲学講義録音テープを公開。テレバシー練習、座談会。
熊本支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	熊本市桜町「熊本市市民会館」会議室。 ☎(55)5235 連絡先=津野田俊行 〒860 熊本市3-12-45 常通寺内 ☎0963-52-3381	200	テキストとして「生命の科学」「テレバシー」(文久書林)を持参。久保田会長の東京例会における「宇宙哲学」講義録音テープ公開。座談と研究発表。テレバシー練習。
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30	名古屋市中区古沢町7-1「名古屋市民会館」特別会議室。☎(052)331-2141 国鉄・名鉄・地下鉄「金山橋駅」下車。徒歩5分。※5月月例会は岐阜市神田町の「岐阜商工会議所」で行います。連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468、武田充弘 ☎052-622-7339	300	テキストとして「生命の科学」「テレバシー」「宇宙哲学」を持参。久保田会長の講演録音テープ公開。研究発表、テレバシー練習、座談会。
仙台支部	毎月第4日曜日 午後1:10→4:20 ※5月は支部大会のため月例会は中止	仙台市「市民会館」会議室(西公園内) 連絡先=笠原弘可 ☎0222-95-0725	200	東京本部月例会における久保田会長の講義録音テープ公開、テレバシー練習、座談会。
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※6月のみ第2日曜日。 山形市社会福祉文化センター ※5月は支部大会のため月例会は中止	山形市民会館。小会議室。山形市香澄町山形駅より徒歩5分。☎0236-42-3121 連絡先=清水 正 山形県米沢市松ヶ岬2-4-31 ☎0238-21-5441 務先・12:00より夜9:00まで)	200	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」を持参。東京本部月例会における久保田会長の講演録音テープ公開、テレバシー練習、研究発表、座談会。
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30	中央区北一条西一丁目「札幌市民会館」会議室。☎011-241-9171 連絡先=伊藤重信 ☎011-251-4331	300	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」と官製ハガキを持参。読書会、テレバシー練習、自己紹介。
静岡支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※5月は支部大会のため月例会は中止	4月からプラザ静岡ビル8階(静岡駅北口すぐ)静岡市御幸町9-1	200	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」を持参。東京本部例会における久保田会長の講演録音テープ公開。テレバシー練習、研究発表。
旭川支部	毎月第3土曜日 午後5:00→8:00	旭川市四条通り10丁目右1号「北海道新聞旭川支社」会議室。電話0166-23-2111 連絡先=石川公一 ☎0166-51-5699	500	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講演録音テープを公開。テレバシー練習、研究発表。
松山支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30	松山市民会館会議室 連絡先=伊藤達夫 ☎0898-22-3060 (電話は夜間のみ8:00以降)	200	テキストとして「生命の科学」「テレバシー」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープ公開。質疑応答、座談会。
群馬支部	毎月第2日曜日 午後2:00→6:00	群馬県太田市「太田市民会館」第6会議室。 連絡先=服部 久 群馬県大泉町下小泉1939-24 いずみ寮内 ☎0276-63-2163・2771	200	東京本部月例会における久保田会長の講義録音テープ公開、座談会等。 ※7月12日の月例会は久保田会長出席特別講演の予定。この日だけ1時から開始。
青森支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	青森市松原「青森市民文化センター」教養室(2) ☎0177-34-0163 連絡先=中根 豊 青森県上北郡東北町字夫雑原541 ☎01756-3-3386		テキストとして「生命の科学」「テレバシー」を持参。東京月例会における久保田会長の講演録音テープを公開。テレバシー練習、研究発表、座談会。

★本誌バックナンバー(旧号)★

米GAP本部公認の唯一の日本支部たる日本GAPがアダムスキー問題に関して正確詳細なインフォメーションを伝える本誌は貴重な資料として後世に残るものです。

No.69 主要記事「アダムスキー問題と宇宙開発」キース・フリットクロフト / 「ヨーロッパのUFO事情、ベルギーGAPの活動とアダムスキーの思い出」メイ・フリットクロフト / 「総会を終えて」久保田八郎 / 「オーラと過去世の透視」 / 「質疑応答」(2)ステイブ・ホワイトティング(3) / その他

No.70 主要記事「創造主のハート」G.アダムスキー / 「愛と太陽の大地」久保田八郎 / 「コンピュータによるUFO写真の真偽判定は正しいか」田畑宏 / 「質疑応答」S.ホワイトティング / 〈写真〉「東京上空のUFO」その他

No.71 主要記事「アリス・ウェルズ女史、逝去」F.ステックリング / 〈アメリカ南米宇宙考古学の旅〉紀行「大アンデスと太陽の帝国へ」久保田八郎 / 質疑応答「宇宙と人間の真相」F.ステックリング & S.ホワイトティング / その他。

No.72 主要記事「宇宙的生活の基本」伊藤達夫 / 「生活の中のアダムスキー哲学」笠原弘可 / 「実践24時間」野口敏治 / 「アダムスキー哲学と私の歩み」遠藤昭則 / 「宇宙哲学との出会いと実践活動の今後」志田真人 / 「アダムスキー問題の本質」久保田八郎 / その他。

※No.69より71までは各¥500。No.72から¥700。千各¥200。

「宇宙哲学」講演録音テープ

今年度東京月例会における久保田先生の毎月の講演を録音した貴重なテープ。理解を深め思想の統一を図る上で重要な資料となるものです。先生の雄大な弁舌をぜひお聴き下さい。

テープ1本(90分) ¥1000 千200

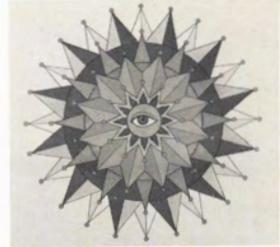
このテープの注文に限り××月分と記して必ず下記へご注文下さい(56年1月より毎月録音)。GAP本部では扱いません。

〒430 静岡県浜松市寺島町221

小島国弘(静岡支部所属。自宅TEL.0534-52-8502)



①



②

①オーソン肖像写真 ②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第2部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウェルズのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた名画の写真。(キャビネ判)(カラー写真)

②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は“すべてを見透す眼”で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービス判)(カラー)

上記2点共、重要な資料となるものです。他所では入手できません。ご注文は必ず日本GAP宛直接に振替でどうぞ。

①¥500千120 ②¥200千60一括注文の場合千120

③想念観察手帖

アダムスキーの宇宙哲学にもとづいて自己の想念印象を観察し、宇宙的想念と非宇宙的想念とに分類して記入する。宇宙的テレパシクな人間になるための必需品。1冊で1カ月分の記入が可能。¥500 千120

④テレパシー練習用

ゼナーカード

アメリカで開発されて世界的に広まったテレパシー練習用カード。5種1組のカードを1箱に5組、計25枚収納。

美麗箱入り。
¥500 千120

日本GAP

編集後記

★現在UFO問題に対する一般人の関心が極端に低下し、ブーム中は雨後のタケノコのように乱立したUFO研究グループも次第に影をひそめています。わが日本GAPも会員数は減少する一方です。しかし他方では中学校の若い女生徒たちが燃ゆるがごとき道精神をもつて入会してくる実態をみますと、宇宙哲学の探求は単なる好奇心のレベルをはるかに超えた高次元カルミクな要素を帯びていることを痛感します。こうした若いすぐれた人々を発掘するのが編者(久保田)の重要任務の一つですから、PRの方法について良いアイデアのある方は遠慮なくお寄せ下さい。たとえば少年少女向けのどのような雑誌に会員募集の広告を出せばよいかという具体的な内容を望みます。

★毎号説教がましい哲学の記事ばかりで面白くないという声があるようなので、本号はバック・ネルソンの珍しい体験「アダムスキーの「空飛ぶ円盤の真相」(原題は「さらば空飛ぶ円盤」)の改訂決定版第一章を主体にしてUFO研究誌本来の姿にもどしましたが如何なものでしょうか。読者によつては哲学がよい、いやUFOが面白いと、さまざまですが、ここらが編者としてつらいところ。旅行記などを載せるのでつまらないという声があるようですが、これは意外です。日本GAP主催の海外研修旅行は多数の会員の眼をやり知れぬほど大きく開かれています。このような企画を毎年実施するUFO研究グループは他にありません。今後もGAPの年中行事の一つとして継続実施し、その報告や体験記等を掲載してまいります。

★今夏の第三回海外研修旅行もすでに参加申込者が二十名に達して団体旅行団が成立しました。たかだか実施は確定しました。定員四十名なのでまだ空席がありますから希望者は早目にお申込み下さい。説明会等については本号38頁をご参照の上、多数ご出席下さい。

★山形支部代表として活動された山口緑君が(若い男性です。念のため)四月より東京へ移住し、編者の助手として活躍中で、特に同君は編集のすぐれた素質を有する非常に有能な

人物ですから編者は大助かりしています。本号は同君に編集法を指導しながらレイアウトした合作です。まだ不備な点が目立つでしょうが、問題は利害を度外視してコラズミのように働く同君の高貴な奉仕精神にあります。これは四帖半のわがGAP事務局に燦然たる光芒を放つものでも、必ずやブラザーズの注目するアパルトに居住してしまふが、今夏の或る試験を目指して猛勉強中ですから、同君宅への訪問はなるべく遠慮下さい。

★アダムスキーの古典的名著「宇宙からの訪問者」(実見記と同乗記の改訂版)の保存用豪華本がユニバース出版社から出ました。採算を度外視して刊行に踏み切った同社の英断に敬意を表するものです。ただし売行があるれば絶版になる可能性もあり、そうなる日本GAPは心臓をもがれるのと同様のことで多数ご購入下されば幸いです。(久)

★三月下旬より久保田先生の絶大なるご支援を頂き、山形の片田舎よりお手伝いすることになりました。かねてよりこうした形でGAP活動を本格的具体的に実践できるようにというイメージを描き続けておりましたが、これが実現し、驚喜しています。田舎者の私にとって東京でのめまぐるしい生活にはまだ馴染めませんが、種々の障害や難事に屈することなく精一杯にがんばって高い覚悟です。なお山形支部は代表を人格高潔な清水正氏が後継されますので大いなる進展をみることでしよう。山形支部共々皆様厚きご支援とご指導をよろしく願います(次第です)(山)

日本GAP機関誌・季刊・春季号
GAPニューズレター 73号
編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒133東京都江戸川区本一色町365-18
電話(651)0958
振替東京4-359112
一九八二年四月二十五日発行
頒価700円・送料200円

